



～ごみゼロ・循環型社会めざして～

活動推進フォーラム

年次報告書（2014年版）

平成26年8月

3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

はじめに

3 R活動推進フォーラムは、前身の全国ごみ減量推進会議・ごみゼロパートナーシップ会議の時から、永年、廃棄物の減量化・リサイクルの普及啓発活動に取り組み、また当フォーラムとなってからは3 R推進全国大会や3 R促進ポスターコンクールなどを柱に、循環型社会の構築へ向けて廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3 Rを推進してきました。発足当初から見ると、事業活動も一段と充実することができ、これも会員の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げる次第です。

ところで、当フォーラムは、今年度から私が会長を務めることとなり、また副会長にNPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長の崎田裕子氏にご就任いただくなど、新たな体制でスタートいたしました。これまで、当フォーラムを支えていただいた武内和彦前会長始め役員の方々に深く感謝申し上げますとともに、関係者の皆様に引き続き当フォーラムに対しご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、循環型社会構築には、3 Rを推進するさまざまな主体の連携・協働が重要とされています。このため、当フォーラムでは近年、会員の増強とともに、会員相互の連携事業を強化して参りました。

会員の増強については、平成22年度から自治体会員の会費の無料化を行い、自治体会員の加入を推進して参りました。環境省からも加入を呼びかけていただき、現在、53自治体会員(40都道府県・2政令指定都市・5特別区・6一般市)と69民間団体会員、併せて122会員(平成25年6月末現在)となり、組織の強化を図ることができました。

また、自治体会員と民間会員による連携・協働事業は、平成25年度にはセミナーや研修会などを13団体と10回開催でき、より効果的・効率的な活動を展開することができました。

今後は、こうした成果を踏まえて、さらに広く効果的な3 R推進活動を展開して参りますので、会員の皆様はじめ関係者の皆様の一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

本報告書は、平成25年度の3 R活動推進フォーラムの活動についてとりまとめたものです。会員の皆様をはじめ3 R活動に係る関係各位の今後の業務の参考になれば幸いです。

平成26年8月

3 R活動推進フォーラム 会長
(慶應義塾大学 教授)
細田 衛士

目 次

	ページ
I 理事会・総会等	1
1 理事会・総会	1
2 企画・運営委員会	26
II 組織・規約	27
1 役員	27
2 事務局	27
3 会員	28
4 3R活動推進フォーラム規約	29
5 3R活動推進フォーラム企画・運営委員会設置要領	31
6 3R活動推進フォーラムについて	32
III 平成25年度事業概要	36
1 第8回3R推進全国大会	36
2 3R促進ポスターコンクール	44
3 循環型社会推進功労者等環境大臣表彰の推薦	62
4 3R推進地方大会後援等の協力	64
5 環境にやさしい買い物キャンペーン	68
6 連携・協働事業	72
7 広報・普及事業	79
8 会員サービスの充実	80
9 調査研究の実施	80

I 理事会・総会等

平成 26 年度理事会及び総会は、平成 26 年 5 月 23 日（金）に法曹会館（東京都千代田区霞が関 1・1・1）において合同で開催され、平成 26 年度事業計画などの議案が承認されるとともに、会長に慶應義塾大学経済学部教授の細田衛士氏、副会長に NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長の崎田裕子氏を選出した。

また、理事会・総会に先立つ 3 月 14 日（金）に（公財）廃棄物・3 R 研究財団会議室にて企画・運営委員会を開催し、理事会・総会に提出する議案等について意見交換を行った。

1. 理事会・総会

（1）開会

＜武内和彦会長の挨拶＞

- ・会員の皆様には日頃より、当フォーラムに対しご指導・ご鞭撻を賜り、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。3 R 活動推進フォーラムも発足して 9 年目を迎え、事業も軌道に乗り始めている。
- ・当フォーラムの会員は、現在自治体会員が 40 都道府県、2 政令指定都市、5 特別区とほか 6 市、併せて 53 会員で 4 会員増え、また民間団体会員も 2 会員増えて 69 会員となり、合わせて 122 会員と 1 年前に比べ 6 会員増えた。環境省からも都道府県・政令指定都市に加入を呼び掛けていただき、改めて御礼申し上げます。
- ・循環型社会や 3 R についての国際協力は、いずれ日本に還元されるということで考えているが、例えば、北九州市ではインドネシアのスラバヤで、低炭素と同時に 3 R も協力して、その地域の自律的な 3 R 活動を促進することが行われている。こういうことは今後ますます重要になる。複合的な環境政策の観点からもこのような取り組みについて配慮していくことが必要である。
- ・今年度第 9 回 3 R 推進全国大会は相模原市さんのご協力により、10 月 29 日（水）に市内の杜のホールはしもとで開催することとなった。会員の皆様に参加して頂きご支援を頂きたい。
- ・本日は、事業報告、事業計画に加えて、理事、監事、会長、副会長当の選任についてご審議いただくこととなっている。宜しく願います。



（2）来賓挨拶

＜庄子真憲環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室長＞

- ・日頃より廃棄物・3 R 行政の推進に多大なご理解とご協力をいただいていることに、厚く御礼を申し上げます。
- ・3 R 活動推進フォーラムは、平成 18 年 1 月の設立以来、幅広い関係者の皆様にご協力をいただき、3 R 推進全国大会、環境大臣表彰の推薦、3 R 推進ポスターコンクールなど数々の活動を通じ循環型社会づくりにご協力をいただいております、大変感謝しています。
- ・昨年 5 月の第 3 次循環型社会形成推進基本計画では、特にリデュース、リユースの取り組み強化、有用金属の回収、安全安心の取り組み強化、3 R 国際協力の推進、循環産業の海外展開支援など様々な政策を展開している。
- ・昨年 4 月からは、使用済み小型家電リサイクルをスタートさせ、さらに有害廃棄物の適正処理、地域で使われていない循環資源、地域循環圏も進めている。

- ・3Rの中でリデュース、リユースを図る取り組みを推進、環境負荷の削減などについても、見える形で国民の皆様の理解を広げていきたい。
- ・循環型社会の実現に向け、国の取組と地方公共団体や産業界、NPO、NGO、研究機関のそれぞれの取り組みの連携が深まることが大事であり、3Rに関する関係各団体の緊密な協力は重要となってくる。環境省としても今後フォーラムの活動に大いに期待をしている。
- ・東日本大震災の対応においては、環境省に求められる役割も大きい。本日までご参加に皆様におかれましても、一層のご理解ご協力をお願いしたい。

(3) 来賓紹介

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課 リサイクル推進室長 庄子真憲氏
 // 課長補佐 松本俊男氏
 // 循環型社会推進室 企画係長 玉井和仁氏
 // 加藤昂紀氏
 経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 課長補佐 小林雅明氏
 // 係長 塩田大氏
 農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室 室長 長野麻子氏
 // 課長補佐 牧野将士氏

(4) 出席者

◇理事・監事

17名中 代理を含めて10名
 (欠席者全員から委任状)

◇会員

122会員中 28会員 (欠席72会員から委任状)



(5) 議長の選出

武内和彦会長を議長に選出した。

(6) 議事

第1号～第6号議案について審議され、満場一致で承認された。なお、第1号議案の平成25年度収支決算については、監事を代表してスチール缶リサイクル協会の酒巻弘三専務理事から監査報告が行われた。

- 第1号議案 平成25年度事業報告(案)及び収支決算(案)について
- 第2号議案 平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 第3号議案 規約の改正について
- 第4号議案 理事及び監事の選任について
- 第5号議案 顧問の承認について
- 第6号議案 会長及び副会長等の選任について

(7) その他

細田新会長及び崎田新副会長による挨拶のあと、武内前会長と杉戸前副会長に花束を贈呈した。また、今年度の3R推進全国大会開催地である相模原市から環境経済局資源循環部の岩部資源循環推進課長による挨拶が行われた。

議案資料

〈第1号議案〉 平成25年度 3R活動推進フォーラム事業報告及び収支決算について

I 組織運営

1. 理事会・総会

理事会・総会を平成25年4月26日（金）に法曹会館（東京都千代田区霞が関1-1-1）で開催し、「平成24年度事業報告及び収支決算」及び「平成25年度事業計画及び収支予算」について議決した。

2. 企画・運営委員会

平成25年度企画・運営委員会を平成26年3月14日（金）に公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室で開催し、平成25年度事業報告（案）、平成26年度事業計画（案）等についてご意見をいただいた。

II 会員の強化・拡充

1. 取組

- ①平成25年6月28日（金）の環境省主催の全国廃棄物・リサイクル行政主管課長会議資料に3R活動推進フォーラムの紹介及び入会案内を掲載していただいた。
- ②平成26年1月31日（金）の環境省主催の全国都道府県及び政令指定都市等環境担当部局長会議資料に3R活動推進フォーラムの案内を掲載していただいた。
- ③未入会団体等に対しては、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」を配信するなど、広報に努めた。

2. 入会状況

平成25年度には、新たに6団体が入会し、会員は122団体（平成26年5月23日現在）となった。新たに入会したのは、自治体では大阪府、練馬区、足立区、豊田市の4自治体、民間団体では一般社団法人環境事業協会、ごみ減量ネットワークの2団体である。

（資料2：会員名簿を参照）

III 3R推進全国大会関連事業

1. 第8回3R推進全国大会の開催

「第8回3R推進全国大会（以下「3R全国大会」という。）」を平成25年10月17（木）13時～17時に環境省、環境省関東地方環境事務所、栃木県と共催し、宇都宮市内の栃木県総合文化センターで開催した。なお、運営は公益財団法人廃棄物・3R研究財団と（株）ダイナックス都市環境研究所が行った。

（1）第8回3R推進全国大会

- 開催日：平成25年10月17日（木）
- 会 場：栃木県総合文化センターサブホール（栃木県宇都宮市本町1-8）
- 入場者数：300名
- プログラム

【第1部】記念式典

- ・主催者挨拶 井上信治環境副大臣 福田富一栃木県知事
武内和彦3R活動推進フォーラム会長
- ・来賓挨拶 小林幹夫栃木県議会副議長

- ・表彰式 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰（10企業7団体4個人）
3R促進ポスターコンクール表彰（最優秀賞 小学生3名、中学生1名）

【第2部】記念シンポジウム

- ・基調講演「いかに循環型社会を構築していくか」
講師：慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏
- ・特別講演「私の3Rとエコライフ」
講師：シンガーソングライター（3R推進マイスター） 白井貴子氏
- ・シンポジウム「3Rの推進でゴミゼロ・循環型社会を」
コーディネーター 慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏
事例紹介・パネリスト
環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長 庄子真憲氏
宇都宮大学教育学部教授 赤塚朋子氏
住友大阪セメント株式会社栃木工場環境課長 星野春彦氏
栃木県芳賀郡芳賀町住民生活部環境対策課長 稲川嘉明氏

(2) 関連イベント

①施設見学

大会当日の午前、3つのコースで施設見学が行われ、参加者は終了後大会に参加した。

□日時：平成25年10月17日（金）9：00～12：00

□見学施設

- ・Aコース 協栄産業株式会社小山工場 MR・ファクトリー（栃木県小山市内）
- ・Bコース 株式会社小松製作所小山工場（栃木県小山市内）
- ・Cコース 宇都宮市クリーンパーク茂原リサイクルプラザ（栃木県宇都宮市内）

②平成25年度3R促進ポスターコンクール入賞作品展示コーナー

③環境省関東地方環境事務所による小型家電リサイクル法認定事業者合同説明会

④出展コーナー（3R推進団体連絡会、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット）

2. 平成25年度3R促進ポスターコンクールの実施

環境省と共催で平成25年度3R促進ポスターコンクールを、以下のように実施した。

□募集期間 平成25年5月1日（水）～9月13日（金）

□応募数	小学校低学年の部（1～2年生）	955点
	小学生中学年の部（3～4年生）	2,725点
	小学校高学年の部（5～6年生）	3,066点
	中学校の部	3,648点
	合計	10,394点

□選考・第一次審査委員会 平成25年9月25日（水）（公財）廃棄物・3R研究財団会議室

・第二次審査委員会 平成25年9月30日（月）法曹会館3階富士の間

□入賞 各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点、4部門計56点を選定

□表彰 平成25年10月17日（木）開催の第7回3R推進全国大会式典で各部門の最優秀賞4名を表彰した。その他の入賞者には賞状が送付された。

3. 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦

3R活動推進フォーラムでは、環境省が実施する循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰に対して、平成18年度から循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について、会員団体から推薦を受け、環境省に対して推薦を行った。

平成25年度は、企業3件、団体2件、個人1件を推薦し、企業3件、団体1件が受賞した。表彰式は、第8回3R推進全国大会式典の席で行われ、全体で10企業、7団体、4個人が受賞した。

【3R活動推進フォーラム推薦の受賞者】

- ＜企業＞ 株式会社マテック（一般社団法人全国清涼飲料工業会推薦）
株式会社橋本（一般社団法人全国清掃事業連合会推薦）
株式会社マルサン（一般社団法人全国清掃事業連合会推薦）
- ＜団体＞ 名古屋市保健委員会（社団法人全国地区衛生組織連合会推薦）

IV 連携・協働事業

1. 循環型社会形成推進セミナー等の開催

会員団体等との連携セミナー等を13回開催した。

(1) 環境省実施の3R推進セミナーとの共催

①平成25年10月16日（水）14：00～16：00

- 名称：資源リサイクルフォーラム
- 主催：環境省、静岡県、静岡県環境衛生自治推進協会連合会、3R活動推進フォーラム
- 会場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ中ホール
- 内容：
 - ・基調講演「地球と遊ぼう！～大地に繋ぐ愛の詩」
シンガーソングライター 白井貴子氏
 - ・特別講演「3Rで広げる環境のまちづくり」
ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田裕子氏

②平成25年10月20日（日）10：40～12：00

- 名称：レジ袋削減5周年／とやまエコ・ストア制度スタート
記念シンポジウム（3R推進シンポジウム）
- 主催：環境省、富山県、3R活動推進フォーラム
- 会場：富山市体育文化センター
- 内容：レジ袋削減5周年/とやまエコ・ストア制度スタート記念シンポジウム
 - ・基調講演「循環型社会推進について」
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長 梶原成元氏
 - ・基調講演「思いは地球規模、行動は足元から」
環境漫才家 林家ライス・カレー子氏
 - ・レジ袋削減5周年取組みの成果
元富山県レジ袋削減推進協議会会長 宮下尚氏
 - ・取組み事例紹介 株式会社ヒラキストア、株式会社ヤングドライ

③平成25年10月31日（木）14：00～16：30

- 名称：廃棄物減量化講習会～ゴミゼロ大作戦～

- 主催：環境省、京都府、(一社) 京都府産業廃棄物 3 R 支援センター、
3 R 活動推進フォーラム
- 会場：綾部市中央公民館中央ホール
- 内容：・基調講演「廃棄物 3 R の最近の動向と求められる企業の対応」
公益財団法人廃棄物・3 R 研究財団調査部長 藤波博氏
- ・講演「企業の廃棄物減量化対策を支援する」
一般社団法人京都府産業廃棄物 3 R 支援センターセンター長 新井吉久氏
- ・事例発表「廃棄物の減量・リサイクルの取り組み」
株式会社さとう総務部次長兼環境保全推進課長 木村道明氏

④平成26年2月4日(火) 13:00～16:30

- 名称：3 R 推進セミナー～地域循環圏から見る市民力と地域パートナーシップ～
- 主催：環境省、NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット、
3 R 活動推進フォーラム
- 会場：スクワール麴町5階「芙蓉」
- 内容：
 - <第1部>「地域づくりから学ぶ連携・協働の事例」
 - ・基調講演「“地域循環圏 “の取組と今後への期待”」
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室 庄子真憲氏
 - ・事例紹介
 - 「過疎高齢化地域で若者が運営する都市との交流・支えあいの仕組み」
NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部 関原剛氏
 - 「リユース・リサイクルの循環型地域連携づくり」
NPO 法人WE 2 1 ジャパン 藤井あや子氏
 - 「地域力を活かした持続可能なまちづくり」
NPO 法人生活工房つばさ・游 高橋優子氏
 - <第2部>総合討論「地域コミュニティから資源が循環する社会づくりを」
 - ・コーディネーター NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 崎田裕子氏
 - ・パネリスト (講師)庄子真憲氏、関原剛氏、藤井あや子氏、高橋優子氏

⑤平成26年2月19日(水) 13:30～16:10

- 名称：3 R 推進地方セミナー～バイオマスの推進を目指して～
- 主催：環境省、佐賀市、3 R 活動推進フォーラム
- 会場：佐賀市清掃工場会議室
- 内容：
 - <第I部>
 - ・基調講演「“地域循環圏” の取組と今後の期待」
環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室係長 玉井和仁氏
 - <第II部>事例発表
 - ・「バイオマス複合利活用事業で資源循環を推進」
(有) 鳥栖環境開発総合センター 総務部 伊地知武郎氏
 - ・「循環型社会を目指した4 R 運動の推進」

- グリーンコープ共同体 田中裕子
- ・「佐賀市バイオマス産業都市構想と展望」
佐賀市環境部循環型社会推進課 井口浩樹

(2) 3R活動推進フォーラムの自主事業による共催

①平成25年7月16日(火) 13:15～16:30

- 名称：小型家電リサイクル法セミナー～信頼と連携で実現するリサイクルの輪～
- 主催：静岡県、3R活動推進フォーラム
- 会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
- 内容：

<第1部>

- ・基調講演「小型家電リサイクル法の推進について」
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室 両瀬真和氏
- ・事例発表

「神奈川県相模原市の取組」

相模原市環境経済局資源循環部資源循環推進課 課長 佐藤清隆氏

「千葉県野田市の取組」

野田市環境部清掃計画課 係長 代田明洋氏

<第2部> 認定事業者と市町との個別相談会

株式会社アビヅ(愛知県名古屋市)、株式会社紅久商店(愛知県豊橋市)

②平成25年8月1日(木) 13:00～16:20

- 名称：循環・3Rシンポジウム～使用済小型家電リサイクルの推進に向けて～
- 主催：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット、3R活動推進フォーラム
- 会場：公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室
- 内容：

<第1部>基調講演「小型家電リサイクル制度の本格実施に向けて」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室長
庄子真憲氏

<第2部>話題提供

「小型家電リサイクルとループづくり」

中部リサイクル運動市民の会 浅井直樹氏

「認定事業者としての小型家電リサイクルの取り組み」

リーテム(株) PI事業推進室 室長 山崎隆久氏

「小型家電リサイクルー豊田市の取り組みー」

愛知県豊田市環境部ごみ減量推進課 副課長 近藤理史氏

<第3部>シンポジウム

- ・コーディネーター：

崎田裕子氏(NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット理事長)

- ・パネリスト：

庄子真憲氏(環境省)、浅井直樹氏(中部リサイクル運動市民の会)、

中島賢一氏（リーテム(株)）、近藤理史氏（愛知県豊田市）

③平成25年8月27日（火）13:00～16:25

- 名称：廃棄物処理処分に伴う副生塩対策セミナー
- 主催：NPO法人環境技術支援ネットワーク、公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R活動推進フォーラム
- 会場：公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室
- 内容：「副生塩問題の現状と課題および対策」福岡大学大学院 樋口壯太郎氏
「副生塩の無隔膜電解法による滅菌剤（エコ次亜）利用技術」
住友電工(株) 牛越健一氏
「焼却施設における副生塩の有効利用事例」三井造船(株) 杉本富男氏
「副生塩の発生とエコ次亜利用の経済性」エイト日本技術開発(株) 横山睦正氏

④平成25年10月18日（金）13:00～17:00

- 名称：廃棄物減量等推進員関東交流大会
- 主催：ごみ減量ネットワーク、NPO法人地域交流センター、3R活動推進フォーラム
- 会場：栃木県総合文化センター特別会議室
- 内容：
 - <第1部> 廃棄物減量等推進員活動事例発表
栃木県那須塩原市、東京都武蔵野市、東京都北区
 - <第2部> 交流会(グループワーク)

⑤平成25年9月20日（金）13:10～16:20

- 名称：平成25年度公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R活動推進フォーラム年次報告会
- 主催：公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R活動推進フォーラム
- 会場：江戸東京博物館 会議室
- 内容：
 - ・特別講演「廃棄物行政・リサイクル行政の動向」
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長補佐 松田尚之氏
 - ・基調講演「高効率ごみ発電の今後について」
鳥取環境大学サステイナビリティ研究所 所長 田中勝氏
 - ・調査研究概要報告
「災害廃棄物対策指針の策定～ごみ焼却施設に係る大震災対策を参考に～」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 上席研究員 河村栄作氏
「災害廃棄物処理等に関する情報整理及び災害対応方策～特定一般廃棄物処理に係る課題を含めて～」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 特別研究員 森朋子氏
 - ・特別報告（頑張り関西WG報告）「メタン発酵システムの社会的普及」
頑張り関西WG（日立造船（株）環境技術企画部 部長）近藤守氏

(3) 3R推進団体連絡会との共催

- 名称：容器包装の3Rに関する市民・自治体等との意見交換会
- 主催：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

①第1回 平成25年7月26日(金) 13:00~16:40

□会場：岡山コンベンションセンター ママカリフォーラム405 (岡山市内)

□内容：

<第1部>事例発表

- ・岡山県環境文化循環型社会推進課 課長 岡村忠彦氏
- ・岡山市環境局環境事業課業務第2係 主査 小玉利昭氏
- ・NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー 藤井園苗氏
- ・3R推進団体連絡会 幹事 酒巻弘三氏

<第2部>グループ討論

- ・3つのワーキンググループによる意見交換
- ・全体総括(グループ報告、全体報告)

②第2回 平成25年10月25日(金) 13:00~16:40

□会場：富山国際会議場多目的会議室 203、204会議室(富山市内)

□内容：

<第1部>事例発表

- ・富山県生活環境文化政策課環境政策課廃棄物対策主査 森友子氏
- ・公益財団法人廃棄物・3R研究財団 調査部長 藤波博氏
- ・環境教育ネットワークとやまエコひろば 環境教育コーディネーター 本田恭子氏
- ・3R推進団体連絡会幹事 幸智道氏

<第2部>グループ討論

- ・3つのワーキンググループによる意見交換
- ・全体総括(グループ報告、全体報告)

③第3回 平成26年1月31日(金) 10:00~16:40

□会場：国際ファッションセンター(KFC) 11階115会議(都内)

□内容：

<第1部>事例発表

- ・中野区環境部 ごみゼロ推進分野資源担当係長 根元宏太氏
- ・さいたま市環境局資源循環推進部資源循環政策課 課長補佐 島村和久氏
- ・NPO法人 FoE Japan 瀬口亮子氏
- ・主婦連合会 環境部長 有田芳子氏
- ・株式会社エコス 秘書室長 境憲一郎氏

<第2部>グループ討論

- ・意見交換(4分科会、テーマ別)
- ・全体総括(分科会報告、全体報告)

2. 3R推進地方大会への協力

各地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に対して後援等の協力を行うとともに、積極的にPRした。

(1) 3R推進北海道大会2013

平成25年10月26日(土) 札幌市内

(2) 3R推進東北大会

平成25年10月24日(木)～26日(土) 仙台市内

エコプロダクツ東北2013同時開催

(3) 第8回3R推進関東大会

①平成25年9月29日(日) 宇都宮市内 もったいないフェア2013場内

②平成25年10月5日(土) 宇都宮市内 エコ・もりフェア2013会場内

(4) 平成25年度3R推進中部地方大会

平成25年11月23日(土)及び10月24日(日) 富山県黒部市内

宇奈月麦酒館感謝祭オータムフェスタ会場内

(5) 平成25年度3R推進近畿ブロック大会

平成25年11月23日(土) 大阪市内

セレッソ大阪 vs サンフレッチェ広島試合会場内

(6) 3R推進中国地方大会 in 岡山

平成25年10月26日(土) 岡山市内

「晴れの日もったいないフォーラム2013」同時開催

(7) 3R推進中国四国地方大会

①平成25年10月31日(木)～11月1日(金) 高松市内

「第57回生活と環境全国大会」同時開催

②平成25年11月2日(土) 高松市内

(8) 3R推進九州ブロック3R推進全国大会

平成25年9月14日(土)～9月15日(日) 日田市内

「2013九州B-1グランプリ in 日田大会」会場内

3. その他の後援・協賛等

(1) 後援

①2013年容器包装3R連携市民セミナー

□開催日時：平成25年11月15日(金) 13:00～16:30

□主催：3R推進団体連絡会

□会場：新宿区四谷区民ホール

②平成25年度建設副産物リサイクル広報用ポスター

□主催：建設副産物リサイクル広報推進会議

□掲出期間：平成25年10月1日～9月30日

③平成25年度ゼロエミッション推進セミナー(庄内会場)

□開催日時：平成25年9月12日(木) 13:30～16:00

□主催：山形県

□会場：山形県立産業技術短期大学行庄内校

④2013建設リサイクル技術発表・技術展示会

□開催日時：技術発表会 平成25年10月24日(木) 13:00～16:30

技術展示会 平成25年10月24日(木)～10月25日(金)

□主催：建設副産物リサイクル広報推進会議 中部地方建設副産物対策連絡協議会

□会場：名古屋市中小企業振興会館

⑤第8回容器包装3R推進フォーラム

開催期間：平成26年2月20日（木）10：00～17：00

主催：3R推進団体連絡会

会場：川崎市産業振興会館（川崎市幸区）

⑥平成25年度ゼロエミッション推進セミナー（村山会場）

開催日時：平成25年11月6日（水）13：30～15：30

主催：山形県

会場：山形県高度研究開発センター（山形市内）

（2）協賛

①第12回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」

主催：公益社団法人全国産業廃棄物連合会

公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団

開催日：平成25年11月8日（金）13：00～16：45

会場：伊勢志摩ロイヤルホテル（三重県志摩市内）

②平成25年度「環境衛生週間」

主唱：環境省、都道府県及び市町村

期間：平成25年9月24日～10月1日（9月24日清掃の日、10月1日浄化槽の日）

③第11回全国大学学生環境活動コンテスト

主催：全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

開催日：平成25年12月26日（木）～27日（金）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

（3）協力

①平成25年度「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」

主催：環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部適正処理・不法投棄対策室

期間：平成25年5月30日～6月5日

②第6回3R・低炭素社会検定

主催：3R・低炭素社会検定実行委員会

試験日：平成26年1月12日（日）

試験会場：仙台・東京・名古屋・金沢・京都・大阪・兵庫・岡山・広島・福岡・佐賀

（4）講師等派遣

3R・低炭素社会検定講習会講師（3R・低炭素社会検定実行委員会主催）

・平成25年11月30日（土）（一社）地球温暖化防止全国ネット会議室

・平成25年12月8日（日）（一社）地球温暖化防止全国ネット会議室

（5）その他

散乱防止美化キャンペーン（スチール缶リサイクル協会主催）

平成25年6月9日（日） 島根県松江市（宍道湖畔・松江駅前）

V 広報普及活動

1. 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施

循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境についての理解を深めるとともに、循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革を促すことを目的として、毎年、10月の3R推進月間

に環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかけており、平成25年度は、47都道府県、50事業者（52,062店舗）で実施した。

2. 展示会への出展

(1) エコライフ・フェア2013

開催日：平成25年6月1日（土）～2日（日）

会場：都立代々木公園ケヤキ並木（NHKホール前）及びイベント広場

来場者：約78,000人

(2) エコ・もりフェア2013

開催日：平成25年10月5日（土）

会場：栃木県子ども総合科学館（栃木県宇都宮市内）

来場者：3,000人

3. 出版物等の発行

(1) 2013年次報告書作成

3R活動推進フォーラムの平成24年度の事業を中心に報告書を作成、ホームページに掲載し、会員、都道府県等関係先に案内した。

(2) 「財団・3Rだより」の発行

「財団・3Rだより」を2013年7月号、会員特集号（2013年12月）、2014年1月号の3回発行し、会員に送付した。

(3) 平成25年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」実施報告書の作成

環境省、経済産業省と環境にやさしい買い物キャンペーンを実施、都道府県及び流通事業者の実施報告書を作成、全国都道府、流通事業者等に送付した。

(4) 3R活動先進事例集2013の作成

平成25年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取組をまとめた3R先進活動事例集を作成し、都道府県、会員等に送付した。

(5) その他

- ・3R推進月間用ポスターの作成

平成25年度3R促進ポスターコンクール入賞作品をデザインした2種類の3R推進月間用のポスターデータを作成し、希望者に提供した。

4. インターネットを活用した情報発信

(1) ホームページによる情報発信

ホームページに各種お知らせ、開催イベントの状況及び関連資料、発行済みの機関誌・メルマガ等を掲載した。

(2) メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の配信

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月2～3回配信した。

(3) 3R活動推進フォーラム事務局通信の配信

会員向けに事務局の業務報告など事務局通信として9回配信した。

5. 新聞・雑誌等における記事・広告掲載等

(1) 記事

- ①環境新聞

平成25年10月9日（水）第8回3R推進全国大会特集記事1ページ

②ウェスト・マネジメント

平成25年10月15日（火）第8回3R推進全国大会特集記事1ページ

平成25年10月25日（金）第8回3R推進全国大会開催ニュース記事

③日刊建設新聞

平成25年10月22日（火）第8回3R推進全国大会開催ニュース記事

④月刊廃棄物

平成25年11月号 第8回3R推進全国大会開催ニュース記事（1ページ）

⑤月刊ウェストリサーチ

平成25年10月号 第8回3R推進全国大会開催ニュース記事（1ページ）

⑥環境情報

平成25年11月1日 第8回3R推進全国大会開催ニュース記事（1ページ）

(2) 広告

①環境新聞

平成25年10月9日（水）3R推進全国大会企画5段1／2

平成26年1月1日（水）新年名刺広告

②ウェスト・マネジメント

平成25年10月15日（火）第8回3R推進全国大会特集連名広告

6. ガイドラインに沿ったRマーク表示の普及推進

3R活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成7年6月設定した再生紙使用マーク（Rマーク）について、平成20年1月に環境省が策定した環境表示ガイドラインに則った適正なRマークの表示方法等の周知を図った。

(1) ホームページでの普及啓発

Rマークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載

(2) 問い合わせに対応

Rマークについて、掲載方法や掲載物等に関する電話などでの問い合わせや、教材などへの掲載方法についての問い合わせなどに対応した。

VI 会員サービスの充実

1. 会員との連携・協働事業の実施（前掲）

4自治体、6団体会員と合計13回のセミナー等を開催した。このうち、環境省の3R推進企画運營業務では、4自治体、3団体と5回開催した。

2. 情報の発信・共有化

(1) 「財団・3Rだより」の発行（前掲）

「財団・3Rだより」会員特集号を12月に発行し、自治体会員の取り組み、民間会員の紹介広告（無料）を掲載（希望会員のみ）したほか、3回発行の「財団・3Rだより」を会員に無料配布した。

(2) 会員のイベント情報等をメルマガで配信（前掲）

月3回配信しているメルマガ「3R・廃棄物ニュース」（前掲）に会員のイベント情報等を掲載した。

(3) 3R活動推進フォーラム事務局通信の配信（前掲）

事業の進捗状況や事務局の状況を会員に報告する事務局通信を9回メール配信した。（3月14日現在）

(4) ホームページの会員ページによる情報提供

①年次報告書2013版等をホームページ上に掲載した。

②ホームページの会員ページにおいて行政資料等会員向け情報を掲載した。

(5) その他

3. 会員割引料金による資料提供

(1) 平成25年9月20日（火）の公益財団法人廃棄物・3R研究財団との共催による年次報告会において、資料を一般参加者3,000円のところ、会員には2,000円のサービス価格で提供した。

(2) 公益財団法人廃棄物・3R研究財団が発行する「ブック財団」を財団会員同様の会員サービス価格で提供した。

4. 3Rグッズ等の配布

(1) 3R推進月間用ポスターデータの配布

平成25年度3R促進ポスターコンクール入賞作品をデザインした3R推進月間用ポスター2種のデータを作成、10月の3R推進月間を中心に希望者に無料で配布した。

平成25年度 収支決算書(案)

自 平成25年 4月 1日

至 平成26年 3月 31日

1.収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	
1 会 費 収 入	4,500,000	4,500,000	0	
2 事 業 収 入	500,000	765,000	265,000	
3 利 息 収 入	600	643	43	
当期収入合計	5,000,600	5,265,643	265,043	
前期繰越収支差額	1,024,556	1,024,556	0	
収入合計	6,025,156	6,290,199	265,043	

2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	
1 普 及 啓 発 費	1,800,000	1,426,334	△ 373,666	
(1) 企画等運営費	400,000	359,340	△ 40,660	
(2) 3 R 推進大会費	400,000	364,245	△ 35,755	全国大会及び地方大会等
(3) セミナー等開催費	600,000	225,926	△ 374,074	
(4) 広報活動費	400,000	476,823	76,823	美化キャンペーン、エコライフフェア等
2 管 理 費	3,180,000	3,840,972	660,972	
(1) 業務委託費	2,730,000	3,220,000	490,000	
(2) その他管理費	450,000	620,972	170,972	HP保守料、宅急便代等
当期支出合計	4,980,000	5,267,306	287,306	
当期収支差額	20,600	△ 1,663	△ 22,263	
次期繰越収支差額	1,045,156	1,022,893	△ 22,263	

平成25年度 貸借対照表(案)

(平成26年 3月31日現在)

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 及 び 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【負 債】	
現 金	131,373	未 払 金	210,121
普通預金	1,000,041	【正味財産】	
立 替 金	101,600	正 味 財 産	1,022,893
		(うち当期正味財産増加額)	(△1,663)
資 産 合 計	1,233,014	負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	1,233,014

監査報告書

3R活動推進フォーラム
会長 武内 和彦 様

3R活動推進フォーラムの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの平成25年度における事業報告書及び収支決算書について監査した結果、いずれも適正に処理されていると認めます。

平成26年5月8日

監事 スチール缶リサイクル協会

専務理事

酒巻弘三 

監事 公益社団法人 全国都市清掃会議

専務理事

佐々木五郎 

＜第2号議案＞ 平成26年度 事業計画及び収支予算について

第3次循環型社会形成推進基本計画においては、質に着目した循環型社会の形成が求められており、2Rの推進、リサイクルの高度化、循環資源・バイオマス資源のエネルギー活用、各主体の連携による地域循環圏の高度化などの取組みが重要であるとしている。

そこで、3R活動推進フォーラムでは、平成26年度の事業計画として、3R推進全国大会や3R促進ポスターコンクールなどへの取組みに加え、自治体会員の入会促進及び会員団体相互の連携・協働による3Rセミナーなどを開催するとともに、広報普及活動や会員サービスの充実を図るため、以下の事業を実施する。

I 組織運営

3R活動推進フォーラムの円滑な運営を図るため、理事会、総会を開催し、事業計画や予算及び決算等を決定する。また、関係省庁、地方自治体、関係団体、学識者等で構成する企画・運営委員会を年数回開催し、今後の事業について意見交換を行う。

1. 理事会

開催日時：平成26年5月23日（金）

- 議 題：①平成25年度事業報告及び決算について
②平成26年度事業計画及び予算について
③規約の改正について
④理事、監事の選任について
⑤顧問の承認について
⑥会長、副会長等の選任について

2. 総会

開催日時：平成26年5月23日（金）

- 議 題：①平成25年度事業報告及び決算について
②平成26年度事業計画及び予算について
③規約の改正について
④理事、監事の選任について
⑤顧問の承認について
⑥会長、副会長等の選任について

3. 企画・運営委員会

開催時期：第1回7～8月 第2回2～3月

議 題：今後の事業等について

II 会員の強化・拡充

自治体及び団体会員の入会を促進し、会員の強化・拡充を図る。

なお、未加入の7県及び政令指定都市、23区等に対する働きを強化します。

1. 自治体会員

毎年、自治体会員の入会が増えつつあるが、引き続き今年度も、都道府県会員の増強及び政令指定都市等の入会を促進する。

（参考）未加入県：秋田県、福島県、山梨県、徳島県、福岡県、宮崎県、鹿児島県

未加入政令指定都市：

札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、静岡市、
新潟市、浜松市、京都市、堺市、広島市、北九州市、
福岡市、熊本市

2. 団体会員等

団体会員等への情報提供、連携強化を推進し、会員の入会促進を図る。

Ⅲ 3R推進全国大会関連事業

今年度は、第8回3R推進全国大会を開催するとともに、大会式典で表彰する3R促進ポスターコンクールを実施する。

1. 3R推進全国大会の開催

「第9回3R推進全国大会（以下「3R推進全国大会」という。）」を環境省、相模原市、3R活動推進フォーラムにより開催する。

開催期日 平成26年10月29日（水）午後1時から5時

開催場所 社のホールはしもと（神奈川県相模原市緑区橋本3-28-1 ミウヰ橋本7階）

2. 3R促進ポスターコンクールの実施

3R促進ポスターコンクールは環境省と毎年実施しているもので、循環型社会の形成を推進するために、小学生、中学生を対象に3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品の選考・表彰することにより、国民一人一人が循環型社会のあり方について考えるきっかけにするとともに、優秀作品を全国の3R活動推進に活用するなど普及啓発に資することを目的としている。

公募開始 平成26年5月下旬頃

応募締切 平成26年9月中旬頃

審査会 平成26年9月下旬頃

表彰式 平成26年10月29日開催の第9回3R推進全国大会の席上

3. 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

平成18年度より環境省が実施している循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰について、平成26年度も会員団体から循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について会員団体からの推薦に基づき、当フォーラムから環境省に対して推薦を行う。

Ⅳ 連携・協働事業

行政、民間団体、企業、NPO等と事業の企画から終了まで連携・協働して、循環型形成推進セミナーや研修・学習相談事業等を実施する。

1. 循環型社会形成推進セミナーの開催

行政、民間団体、企業、NPO等と連携・協働して、循環型形成推進セミナーを5回程度開催する。

また、3R団体連絡会（容器包装リサイクル法関連8団体）と容器包装交流セミナーを長野（7月）、松山（11月）、名古屋（2月）で開催することから、企画・運営員会で意見があった消費者団体やNPO団体への参加を積極的に働きかけていく。

さらに、会員アンケートでセミナー等の開催を希望する会員との連携セミナーは、テーマなど

十分考慮しながら実施していく。

(参考) 平成25年度は4自治体、6団体会員と合計13回開催した。

2. 年次報告会開催

公益財団法人廃棄物・3R研究財団と年次報告会を開催する。

3. 研修・学習相談事業

会員からの要望により、研修・学習相談事業を行っていく。

4. 3R推進地方大会への協力

地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に対して後援等の協力を行う。

5. その他後援・協賛等

関係団体の開催イベントに後援・協賛や講師派遣、参加等の協力を行う。

V 広報普及活動

3Rの普及啓発のため、「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施、関連展示会への出展、ホームページの充実、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の発信、各種出版物の発行、3R啓発ポスターの作成、専門新聞・雑誌を活用した広報活動などを行う。

1. 「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施

環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかける。

2. 展示会への出展

(1) エコライフ・フェア2014への出展

環境省が毎年環境月間に代々木公園で開催するエコライフ・フェアに出展する。

(2) 地方開催の環境展等への出展

地方自治体等で開催される環境展に出展する。

3. 出版物の発刊

(1) 年次報告書2014版の発行

3R活動推進フォーラムの平成25年度の活動状況等を事業年報(6月頃作成予定)としてとりまとめる。

(2) その他の出版物

調査研究事業の成果を出版物にまとめる。

4. インターネットを活用した情報発信

(1) ホームページによる情報発信

(2) メルマガ「3R・廃棄物ニュース」(月3回)の配信

(3) 3Rフォーラム事務局通信(会員向けに月1回)の配信

5. 3R啓発ポスターの作成

年間を通して使用できる3R推進の啓発用ポスターや3R推進月間用ポスター等として印刷して使用できるデータを作成し、希望者に提供する。

6. 専門新聞・雑誌の活用

専門新聞・雑誌の取材に積極的に協力するとともに、当フォーラムの事業について記事掲載等による周知を図る。

7. ガイドラインに沿ったRマーク表示の普及推進

Rマークの使用にあたっての留意事項等を引き続きホームページに掲載するとともに、掲載方法や掲載物等に関する電話などでの問い合わせに対応する。

VI 会員サービスの充実

一般の方に対する情報提供に加えて、会員サービスの充実を図るため、組織の強化・拡充、ホームページ改造などを実施する。

1. 会員との連携協働事業の推進

連携協働事業をさらに推進するため、今年度も会員との共催セミナー等を企画し、運営ノウハウの共有、内容の充実、コスト削減、人材育成等に寄与する。

2. 会員への情報提供の拡充

(1) 会員専用ページによる情報提供

ホームページの会員ページで会員向けの情報提供を行う。

(2) 事務局通信の配信

2ヶ月に1回程度、3R活動推進フォーラム事業経過など会員向けの事務局通信を配信する。

(3) 各種出版物の配布

各種出版物を会員に提供する。

3. 会員情報の発信

(1) メルマガによる情報発信（前掲）

毎月3回配信しているメルマガ「3R・廃棄物ニュース」で、会員のイベント情報等を掲載する。

(2) ホームページによる情報発信

会員情報について、ホームページに掲載する。

4. 会員割引料金による資料等提供

公益財団法人廃棄物・3R研究財団が発行する「ブック財団」（有料頒布）について会員割引料金で提供する。

5. 3Rグッズの制作・配布

(1) 3Rグッズの制作

会員の希望により 3 R グッズを制作し、安価に提供する。

(2) 3 R 啓発ポスターデータの制作・提供

3 R 推進キャンペーンポスターとして使用できる、3 R 促進ポスターコンクール入賞作品をデザインしたポスターデータ等を制作し、会員希望者に無料で提供する。

VII 調査研究の実施

1. 公益財団法人廃棄物・3 R 研究財団の 3 R 関連調査研究への協力
2. 3 R を推進するためのアンケート調査等の実施

平成26年度 収支予算書(案)

自 平成26年 4月 1日
至 平成27年 3月31日

1.収入の部

(単位:円)

科 目	平成26年度 予算額	平成25年度 決算額	差引額	
1 会 費 収 入	4,500,000	4,500,000	0	
2 事 業 収 入	500,000	765,000	△ 265,000	
3 利 息 収 入	600	643	△ 43	
当期収入合計	5,000,600	5,265,643	△ 265,043	
前期繰越収支差額	1,022,893	1,024,556	△ 1,663	
収入合計	6,023,493	6,290,199	△ 266,706	

2.支出の部

科 目	平成26年度 予算額	平成25年度 決算額	差引額	
1 普 及 啓 発 費	1,350,000	1,426,334	△ 76,334	
(1) 企画等運営費	360,000	359,340	660	
(2) 3R推進大会費	350,000	364,245	△ 14,245	全国大会及び地方大会
(3) セミナー等開催費	240,000	225,926	14,074	
(4) 広報活動費	400,000	476,823	△ 76,823	美化キャンペーン、エコ ライフフェア等
2 管 理 費	3,600,000	3,840,972	△ 240,972	
(1) 業務委託費	3,000,000	3,220,000	△ 220,000	
(2) その他管理費	600,000	620,972	△ 20,972	HP保守料、宅急便代等
当期支出合計	4,950,000	5,267,306	△ 317,306	
当期収支差額	50,600	△ 1,663	52,263	
次期繰越収支差額	1,073,493	1,022,893	50,600	

注) 業務委託費は人件費及び家賃等の一部を(公財)廃棄物・3R研究財団に委託するもの。

<第3号議案> 規約の改正について

- 1 規約第9条に、
「6 理事のうち1名を専任理事とし、総会において選出する。」を加える。
「7 専任理事は、事務局を総括する。」を加える。
- 2 「6 監事は、フォーラムの会計監査をする。」を
「8 監事は、フォーラムの会計を監査する。」に改める
- 3 「7 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。」を
「9 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。」に改める。
- 4 施行年月日 平成26年5月23日

<第4号議案> 理事及び監事の選任について

規約第9条第2項により、理事及び監事を下記の通り選任する。
任期は平成26年5月23日から平成28年5月22日とする。

理事	石井 邦夫	公益社団法人全国産業廃棄物連合会 会長
理事	宇田川育男	一般社団法人日本環境保全協会 会長
理事	小川 賢治	一般社団法人日本経済団体連合会環境安全委員会廃棄物・ リサイクル部会長
理事	長田 守弘	一般社団法人廃棄物資源循環学会 副会長
理事	葛西 光春	公益社団法人全国都市清掃会議 会長
理事	北橋 建治	建設副産物リサイクル広報推進会議 会長
理事	西藤 久三	財団法人食品産業センター 理事長
理事	崎田 裕子	NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長
理事	末吉 興一	公益財団法人国際東アジア研究センター 理事長
理事	平井 一夫	一般財団法人家電製品協会 理事長
理事	藤村コノエ	NPO 法人環境文明21 共同代表
理事	藤波 博	3R活動推進フォーラム事務局長
理事	細田 衛士	慶應義塾大学経済学部 教授
理事	三井 崇裕	一般社団法人全国清掃事業連合会 会長
		(理事 アイエエ順)
監事	酒巻 弘三	スチール缶リサイクル協会 専務理事
監事	佐々木五郎	公益社団法人全国都市清掃会議 専務理事
		(監事 アイエエ順)

＜第5号議案＞ 顧問の承認について

規約第10条第1項により、顧問を下記の通り承認する。
任期は平成26年5月23日から平成28年5月22日とする。

顧問 加藤 三郎 株式会社環境文明研究所 代表取締役 所長

顧問 庄子 幹雄 NPO法人環境立国 理事長

顧問 千葉 弘記 一般社団法人日本環境保健活動団体連合会 会長

(顧問 アイウエオ順)

＜第6号議案＞ 会長及び副会長等の選任について

- 1 規約第9条第3項により、会長及び副会長を下記の通り選任する。
任期は平成26年5月23日から平成28年5月22日とする。

理事 細田衛士を会長に選任する。

理事 崎田裕子を副会長に選任する。

- 2 規約第9条第6項により、専任理事を下記の通り選任する。
期は平成26年5月23日から平成28年5月22日とする。

理事 藤波博を専任理事に選任する。

- 3 施行年月日 平成26年5月23日

2. 企画・運営委員会

平成26年度企画・運営委員会を3月14日（金）午前10時から（公財）廃棄物・3R研究財団会議室で開催いたしました。これには、環境省から廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室の庄子真憲室長にご出席いただいたのをはじめ、農林水産省からもご出席いただきました。

委員会では、平成25年度の事業実施状況をご報告するとともに、平成26年度の事業計画（案）などについてご意見をいただきました。

【出席者】

<委員>

今井伸治 一般社団法人日本有機資源協会専務理事
香川智紀 公益社団法人全国産業廃棄物連合会調査部長兼事業部長
鬼沢良子 特定非営利活動法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長
齋藤和弥 東京都環境局廃棄物対策部長
田中裕二 一般財団法人家電製品協会環境部長
山本耕平 株式会社ダイナックス都市環境研究所所長
山脇 敦 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 適正処理推進部 次長

<関係省>

庄子真憲 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室長
玉井和仁 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室企画係長
牧野将士 農林水産省食糧産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室課長補佐

<オブザーバー>

小峰且也 株式会社環境新聞社 専務取締役
新倉 充 日報ビジネス株式会社環境編集部課長
森本 洋 株式会社環境産業新聞社取締役会長

<事務局>

八木美雄（3R活動推進フォーラム 専任理事）
藤本正（3R活動推進フォーラム 事務局長）
藤波博（3R活動推進フォーラム 調査部長）

平成25年度企画・運営委員会

（平成26年3月14日（公財）廃棄物・3R研究財団会議室）



II 組織・規約(平成26年7月31日現在)

1. 役員等

会 長	細田 衛士	慶應義塾大学経済学部教授
副 会 長	崎田 裕子	(NPO) 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
専任理事	藤波 博	3 R 活動推進フォーラム事務局長
理 事	石井 邦夫	(公社) 全国産業廃棄物連合会会長
理 事	宇田川育男	(一社) 日本環境保全協会会長
理 事	小川 賢治	(一社) 日本経済団体連合会環境安全(委) 廃棄物・リサイクル部会長
理 事	長田 守弘	(一社) 廃棄物資源循環学会副会長
理 事	葛西 光春	(公社) 全国都市清掃会議会長
理 事	北橋 建治	建設副産物リサイクル広報推進会議会長
理 事	西藤 久三	(財) 食品産業センター理事長
理 事	末吉 興一	(公財) 国際東アジア研究センター理事長
理 事	田中 久雄	(一財) 家電製品協会理事長
理 事	藤村コノエ	(NPO) 環境文明 21 共同代表
理 事	三井 崇裕	(一社) 全国清掃事業連合会会長

(理事 50 音順)

監 事	酒巻 弘三	スチール缶リサイクル協会顧問
監 事	佐々木 五郎	(公社) 全国都市清掃会議専務理事

(監事 50 音順)

顧 問	加藤 三郎	(株) 環境文明研究所代表取締役所長
顧 問	庄子 幹雄	NPO 法人環境立国理事長
顧 問	千葉 弘記	(一社) 日本環境保健活動団体連合会会長

(顧問 50 音順)

2. 事務局

(1) 体制

専任理事・事務局長 藤波 博 ((公財) 廃棄物・3 R 研究財団調査部長)
広報担当部長 藤本 正 ((公財) 廃棄物・3 R 研究財団広報担当部長)
事務局員 金安 恭子

(2) 住所

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F(公財) 廃棄物・3 R 研究財団内
TEL : 03-6908-7311 FAX : 03-5638-7164
E-mail : info@3r-forum.jp

3. 会員

3R活動推進フォーラム 会員一覧

H26.7.31現在

No.	団体名	No.	団体名	No.	団体名
自治体会員		39	大分県	29	(一社)全国浄化槽団体連合会
1	北海道	40	沖縄県	30	全国生活学校連絡協議会
2	青森県	41	大阪市	31	(一社)全国清掃事業連合会
3	岩手県	42	神戸市	32	(一社)全国清涼飲料工業会
4	宮城県	43	目黒区	33	全国地域婦人団体連絡協議会
5	山形県	44	豊島区	34	(一社)日本環境保健活動団体連合会
6	茨城県	45	荒川区	35	(公社)全国都市清掃会議
7	栃木県	46	練馬区	36	(公財)全国老人クラブ連合会
8	群馬県	47	足立区	37	全日本自治団体労働組合
9	埼玉県	48	岩見沢市	38	電気事業連合会
10	千葉県	49	川口市	39	日本環境安全事業(株)
11	東京都	50	船橋市	40	(一社)日本環境衛生施設工業会
12	かながわ3R推進会議 (神奈川県、横浜市、相模原市、横須賀市)	51	豊田市	41	(一財)日本環境衛生センター
		52	東海市	42	(公財)日本環境協会
13	新潟県	53	佐賀市	43	(公財)日本環境整備教育センター
14	富山県	計53会員		44	(一社)日本環境保全協会
15	石川県	民間団体会員		45	日本化粧品工業連合会
16	福井県	1	(公財)あしたの日本を創る協会	46	日本鉱業協会JMIA
17	長野県	2	アルミ缶リサイクル協会	47	日本再生資源事業協同組合連合会
18	岐阜県	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	48	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター
19	静岡県	4	(一財)家電製品協会	49	(一財)日本消費者協会
		5	紙製容器包装リサイクル推進協議会	50	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
		6	ガラスびんリサイクル促進協議会	51	(一社)日本自動車工業会
		7	(一社)環境衛生施設維持管理業協会	52	日本生活協同組合連合会
		8	NPO法人環境技術支援ネットワーク	53	(一社)日本即席食品工業協会
20	ごみゼロ社会推進あいち県民会議 (愛知県、名古屋、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市、津島市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、蒲郡市、犬山市、常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、新城市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、豊明市、日進市、田原市、愛西市、清州市、北名古屋、弥富市、みよし市、あま市、長久手市(以上38市他14町2村、11一部事務組合))	9	(一財)環境事業協会	54	(一社)日本鉄鋼連盟
		10	(公社)環境生活文化機構	55	(一社)日本廃棄物コンサルタント協会
		11	NPO法人 環境文明21	56	(一社)日本パン工業会
21	三重県	12	(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター	57	(公社)日本PTA全国協議会
22	滋賀県	13	NPO法人 グリーンコンシューマー東京ネット	58	日本百貨店協会
23	京都府	14	建設廃棄物協同組合	59	NPO日本ファイバーリサイクル推進協会
24	大阪府	15	建設副産物リサイクル広報推進会議	60	(一社)日本有機資源協会
25	兵庫県	16	(独)国立環境研究所	61	日本労働組合総連合会
26	奈良県	17	ごみ減量ネットワーク	62	(一社)廃棄物資源循環学会
27	和歌山	18	NPO最終処分場技術システム研究協会	63	(公財)廃棄物・3R研究財団
28	鳥取県	19	(公財)産業廃棄物処理事業振興財団	64	(一社)パソコン3R推進協会
		20	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット	65	びん再使用ネットワーク
29	鳥根県	21	(一財)食品産業センター	66	(一社)プラスチック循環利用協会
30	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議 (岡山県、岡山市、津山市)	22	(公社)食品容器環境美化協会	67	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
31	広島県	23	スチール缶リサイクル協会	68	PETボトルリサイクル推進協議会
32	山口県	24	石油連盟	69	(公財)水と緑の惑星保全機構
33	香川県	25	全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会		
34	愛媛県	26	全国環境整備事業協同組合連合会	計69会員	
35	高知県	27	全国牛乳容器環境協議会	会員合計122団体	
36	佐賀県	28	(公社)全国産業廃棄物連合会		
37	長崎県				
38	熊本県				

4. 3R活動推進フォーラム 規約

平成18年	5月31日	総会決定
平成19年	5月22日	一部改正
平成21年	5月12日	一部改正
平成22年	4月28日	一部改正
平成22年	4月24日	一部改正
平成26年	5月23日	一部改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本団体は、3R活動推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第2条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rによる循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事 業)

第4条 フォーラムは、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 3Rに関する研鑽・啓発
- (2) 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3Rに関する調査研究の実施・支援
- (4) 3Rに関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前4項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第5条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入 会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもって会員とする。

(負担金)

第7条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。

2 自治体会員は負担金を免除する。

(退 会)

第8条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

第4章 組織及び運営

(役 員)

第9条 フォーラムに次の役員を置く。

理事 30名以内

監事 2名

- 2 理事及び監事は総会において選任する。
- 3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。
- 4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 理事のうち、1名を専任理事とし、総会において選出する。
- 7 専任理事は、事務局を総括する。
- 8 監事は、フォーラムの会計を監査する。
- 9 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問(若干名)をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。顧問の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

- 2 総会は会長が招集し、役員の任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。
- 3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

(企画・運営委員会)

第12条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

- 2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第13条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならない。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

(事業報告及び決算)

第14条 フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第15条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を(公財)廃棄物・3R研究財団に置く。

- 2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

第5章 雑 則

(委 任)

第17条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

附 則

この規約は、平成18年5月31日から施行する。
この規約の一部改正は、平成19年5月22日から施行する。
この規約の一部改正は、平成21年5月12日から施行する。
この規約の一部改正は、平成22年4月28日から施行する。
この規約の一部改正は、平成24年4月24日から施行する。
この規約の一部改正は、平成26年5月23日から施行する。

(参 考)

3R活動推進フォーラム 負担金に関する規定

平成18年5月31日 総会決定
平成22年4月28日 一部改正

規約第7条に基づき、次のとおりとする。

- 第1 会員は年会費として10万円を納付しなければならない。
- 第2 自治体会員の負担金は免除する
- 第3 規約第6条に基づき入会するに際し、会費の納入が困難である等特別の事情がある場合には、第1の規定にかかわらず会費の納入を免除することができる。
- 第4 負担金は、5月末日までに納付するものとする。

5. 3R活動推進フォーラム 企画・運営委員会設置要領

平成21年 5月12日理事会決定

(目 的)

第1条 3R活動推進フォーラム(以下「フォーラム」という。)規約第12条により、フォーラムに企画・運営委員会(以下「委員会」という。)を設置し、理事会から付託された事項または、会長より諮問された事項について審議することを目的とする。

(構 成)

第2条 委員会は、会員及び会員外の有識者をもって構成する。

(任 期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

(招 集)

第5条 委員会は、会長が招集する。

(委員会)

第6条 委員会は、フォーラムの組織、制度、事業計画について必要となる事項について審議する。

2 委員会は、審議に必要な調査を行うことができる。

3 委員会は、審議に必要と認める場合は、その目的に相応しい関係者を出席させることができる。

(審議事項の処理)

第7条 委員長は、委員会で審議決定した事項及び経過を理事会に報告し、または会長に答申しなければならない。

(附 則)

この要領は平成21年5月12日から施行する。

6. 「3R活動推進フォーラム」について

(1) 「3R活動推進フォーラム」の沿革—ごみ減量化から3Rへ—

「3R活動推進フォーラム」の前身は、平成4年に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3年(1991)10月、「廃棄物処理法」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、再生利用(リサイクル)等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱(法目的)として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体にあつて、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」が(社)全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、全国大会開催とは別に、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行っています。その結果、平成7年(1995)6月には、再生紙マーク(Rマーク)の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われています。

平成12年(2000)6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎え持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14年(2001)7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一步踏み込んだ「ごみゼロ型社会造り」(循環型社会造り)の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成16年(2003)6月、米国シーアイランドで開催されたG8サミットにおいて、小泉元総理は、3R(ごみの発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle))を通じた循環型社会の形成を目指す「3Rイニシアティブ」を提唱し、G8各国の首脳の合意を得ました。翌平成17年(2004)4月、我が国は「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3Rの国際的推進に主導的役割を果たすことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18年(2006)1月、「3R活動推進フォーラム」(会長:小宮山宏東京大学総長)が発足しました。そして、平成19年(2007)5月、(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団(平成23年12月に(公財)廃棄物・3R研究財団に移行)に事務局が移り、現在に至っています。

平成22年4月の総会では、武内和彦東京大学大学院教授に会長に就任していただくとともに、自治体会員の会費を免除する規約改正を決定し、組織及び事業推進についての強化を図った結果、現在、自治体会員53、民間会員69、合わせて122会員(平成26年7月末現在)となっています。

平成26年5月の総会で、武内氏から細田衛士慶應義塾大学経済学部教授に会長が引き継がれ、事務局も新たな体制でスタートしました。

(2) 事業活動

3R活動推進フォーラムは、①3Rに関する研鑽・啓発、②3Rに関する先進的事業の実施・支援、③3Rに関する調査研究の実施・支援、④3Rに関する国内外の情報の収集、提供等に関連する事業を実施しています。具体的には、3R推進全国大会(10月)の開催、3R促進ポスターコンクールや環境にやさしい買い物キャンペーンの実施、連携・協働事業としてのセミナー・研修会

などの開催、3R推進地方大会などへの協力の他、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦など幅広く事業を展開しています。

平成26年度の事業計画については、5月23日の総会において承認されました。第3次循環型社会形成推進基本計画の実施などを踏まえ、国内外での対応強化が求められていることから、毎年開催している3R推進全国大会などへの取り組みに加え、この基本計画が求めている循環型社会の形成や各主体が連携・協働した取組に貢献すべく、以下に示す事業を実施することとしています。

1) 3R推進全国大会関連事業

平成26年度は神奈川県相模原市内で3R推進全国大会を開催することとしており、併せて3R促進ポスターコンクール、循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦を実施する。

2) 連携・協働事業

フォーラムの会員団体などとのセミナー等の共同開催や3R推進地方大会等への協力・後援等による連携を強化し、3R活動の推進事業の推進、拡大に努める。

3) 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施

10月の3R推進月間に環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかけ、その取組を報告書にとりまとめ関係者に配布する。

4) 研修・学習相談事業

自治体及び会員団体を対象に3R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、具体化を検討する。

5) 広報普及事業

展示会等に出展して3Rの啓発・普及に努めるとともに、フォーラムの活動状況を年次報告書等出版物にまとめ周知を図る。また、ホームページの充実を図り、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の配信等、インターネットを活用して広く3Rの推進を啓発・普及を行っていく。

(3) おわりに—フォーラムの今後—

小泉元総理は、「日本の3R推進の経験—循環型社会の構築に向けて—」（環境省、2005年4月）において、「環境保護と経済発展を両立する実現する鍵は科学技術にあります。ごみを減らし、使えるものはくり返し使うというモノを大切にす「もったいない」という心が科学技術と結びついた時に、大きな力を発揮すると思います。」と述べています。これからは、「もったいない」というマインド、すなわち2R（ごみの排出量を減らすこと（Reduce）、使えるものは使うこと（Reuse））という先達のノウハウを明確に把握しながら、廃棄物・リサイクル関連技術の確立にも努める必要があります。

このような大きな命題を前にしたフォーラムですが、限られた人的・予算資源の中で、一步一步、実績を着実に積み上げ関係各位からの信頼を勝ち得て、3R活動分野の調整役（コーディネーター）の重責を果すことが求められています。今後とも、3R業務の推進に全力を尽くす所存ですので、国、地方公共団体、関係団体、NPOをはじめ関係各位のご指導、ご協力をお願いするものです。

<参考資料1> 3R活動推進フォーラムの沿革「ごみ減量化から3Rへ」

平成4年（1992） 9月 「ごみ減量化推進国民会議」発足

平成14年（2002） 7月 「ごみゼロパートナーシップ会議」に改組

平成18年（2006） 1月 「3R活動推進フォーラム」に改組

平成19年（2007） 4月 「3R活動推進フォーラム」事務局、(財)廃棄物研究財団（現・(公財)廃棄物・3R研究財団）に移る

<参考資料2>

3R関係年表

平成 元年 (1989)	6月、東京都、ごみ減量キャンペーン「TOKYO SLIM89」 8月、財団法人廃棄物研究財団設立 12月、鈴木都知事、都議会でゴミの非常事態を宣言
2年 (1990)	3月、廃棄物学会設立 10月、株価暴落し、バブル景気の崩壊 12月、「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」(旧ガイドライン)
3年 (1991)	6月、「再生資源利用促進法」公布 10月、「廃棄物処理法」改正され、法の目的にごみの減量化・発生抑制、再生(リサイクル)の推進が導入された
4年 (1992)	6月、地球サミット、リオ・デジャネイロで開催 9月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> の設立総会を岡山市で開催 9月、 第1回ごみ減量化推進全国大会 (岡山県、岡山市)
5年 (1993)	11月、「環境基本法」公布 第2回ごみ減量化推進全国大会 (東京都)
6年 (1994)	5月、「再生紙利用促進のための具体的行動目標」採択 9月、 第3回ごみ減量化推進全国大会 (大阪府、大阪市) 12月、「環境基本計画」発表、循環、共生、参加、国際的取り組み
7年 (1995)	6月、「容器包装リサイクル法」公布 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「包装・容器の減量化に関する指針」採択、「再生紙使用マーク」(Rマーク)設定 「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」制定 9月、 第4回ごみ減量化推進全国大会 (千葉県、千葉市)
8年 (1996)	10月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「PET ボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表 10月、 第5回ごみ減量化推進全国大会 (福岡県、福岡市、北九州市)
9年 (1997)	1月、「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン) 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「再生紙利用促進のガイドライン」採択 10月、 第6回ごみ減量化推進全国大会 (宮城県、仙台市)
10年 (1998)	6月、「家電リサイクル法」公布 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、再生紙利用促進のガイドライン(改正)採択 10月、 第7回ごみ減量化推進全国大会 (兵庫県、神戸市) 「地球温暖化対策法」公布
11年 (1999)	7月、「ダイオキシン類対策特別措置法」公布 10月、 第8回ごみ減量化推進全国大会 (埼玉県、浦和市)
12年 (2000)	5月、「建設リサイクル法」、「グリーン購入法」公布 6月、「循環型社会形成推進法」、「食品リサイクル法」、「資源有効利用促進法」公布 10月、 第9回ごみ減量化推進全国大会 (広島県、広島市)
13年 (2001)	1月、中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管 10月、 第10回ごみ減量化推進全国大会 (北海道、札幌市)
14年 (2002)	7月、「自動車リサイクル法」公布 7月、 第10回総会 、「 <u>ごみゼロパートナーシップ会議</u> 」に改称 11月、 第1回ごみゼロ推進全国大会 (徳島県、徳島市)

15年 (2003)	3月、「循環型社会形成推進基本計画」公表 10月、 第2回ごみゼロ推進全国大会 （富山県、富山市）
16年 (2004)	6月、G8シーアイランドサミット（米国）、小泉首相が3Rイニシアティブを提唱し合意される 10月、 第3回ごみゼロ推進全国大会 （静岡県、静岡市）
17年 (2005)	2月、「京都議定書」発効 4月、「3Rイニシアティブ閣僚会合」を東京で開催 「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ごみゼロ国際化行動計画）発表 10月、 第4回ごみゼロ推進全国大会 （長崎県、佐世保市）
18年 (2006)	1月、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ「 3R活動推進フォーラム 」発足 3月、「3Rイニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催 7月、会長に小宮山宏東京大学総長が就任 10月、 第1回3R推進全国大会 （愛知県、名古屋市）
19年 (2007)	5月、 <u>事務局が(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団に移る</u> 「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート 6月、「21世紀環境立国戦略」閣議決定、「3Rを通じた持続可能な資源循環」を推進 G8ハイリゲンダムサミット（独）、地球温暖化問題が最重要課題の一つとなる 安倍首相「美しい星50(クールアース50)を提案 10月、 第2回3R推進全国大会 (福岡県、北九州市)
20年 (2008)	3月、「循環型社会形成推進基本計画」改訂 7月、北海道洞爺湖G8サミット 10月、 第3回3R推進全国大会 （山形県、山形市）
21年 (2009)	10月、 第4回3R推進全国大会 （千葉市）
22年 (2010)	4月、会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任 5月、廃棄物処理法改正公布 11月、 第5回3R推進全国大会 (佐賀県、佐賀市)
23年 (2011)	8月、東日本大震災により生じた廃棄物の処理の特例に関する法律公布 8月、「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」公布 10月、 第6回3R推進全国大会 （京都市） 12月、(公財) 廃棄物・3R研究財団設立
24年 (2012)	8月、特定産業廃棄物特別措置法一部改正法律公布 8月、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律公布 10月、 第7回3R推進全国大会 （東京都内）
25年 (2013)	5月、第3次循環型社会形成推進基本計画閣議決定 10月、 第8回3R推進全国大会 （栃木県）
26年 (2014)	5月、会長に細田衛士慶應大学教授が就任 10月、第9回3R推進全国大会を相模原市で開催の予定イ

Ⅲ 平成 25 年度事業概要

1. 第 8 回 3R 推進全国大会

(1) 全体概要

3 R 推進全国大会は、国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供することを通じ、ごみの減量・再資源化などの 3 R 推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組みを推進することを目的に毎年開催されており、平成 25 年度の第 8 回大会は環境省、環境省関東地方環境事務所、栃木県と 3 R 活動推進フォーラムの主催により 10 月 17 日（木）に宇都宮市内の栃木県総合文化センターで開催された。

(2) 第 8 回 3 R 推進全国大会

1) 開催概要

○日 時

平成 25 年 10 月 17 日（木）
13:00~17:00

○会 場

栃木県総合文化センター
（栃木県宇都宮市本町 1-8）

○参加者

一般市民、事業者、行政関係者など約 300 名

○プログラム

第 1 部 記念式典

◇主催者挨拶

井上信治 環境副大臣

福田富一 栃木県知事

武内和彦 3 R 活動推進フォーラム会長

◇来賓挨拶 小林幹夫 栃木県議会副議長

◇表彰式 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

3 R 促進ポスターコンクール表彰（最優秀賞）

第 2 部 第 8 回 3 R 推進全国大会記念シンポジウム

◇基調講演「いかに循環型社会を構築していくか」

講師：慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士 氏

◇特別講演「私の 3 R とエコライフ」

講師：シンガーソングライター（3 R 推進マイスター） 白井貴子 氏

◇シンポジウム「3 R の推進でごみゼロ・循環型社会を」

【コーディネーター】慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士 氏

【事例紹介・パネルディスカッションパネリスト】

宇都宮大学教育学部教授 赤塚朋子 氏



住友大阪セメント株式会社栃木工場環境課長 星野春彦 氏

栃木県芳賀郡芳賀町住民生活部環境対策課長 稲川嘉明 氏

環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長 庄子真憲 氏

第3部 参加者による名刺交換会（16：45～17：00 会場：1Fロビー）

2) 記念式典

①主催者挨拶(要旨)

【井上信治環境副大臣】

・環境省では、大量生産・大量消費型の社会ではなく、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減された循環型社会の形成を目指し、3Rを推進してきた。おかげでこの10年間で廃棄物の埋め立て量は3分の1となった。

・本大会は、この3Rの取組をさらに推進するため、国民や事業者、地方自治体の皆様など幅広い関係者が一堂に会し、相互の取組について理解を深める場として、平成18年度から毎年開催をしている。本日、循環型社会の形成への御功績により表彰を受けられる皆様、是非そのすばらしい取組を全国に広げる地域のリーダー役として、引き続きの御活躍をお願い申し上げます。

・また、ポスターコンクールでは1万点以上の応募作品の中から見事、最優秀賞に選ばれました小学生・中学生の皆様方、コンクールのテーマである3Rを是非毎日の生活の中で実行してください。お一人お一人が実際に活動に移すことによって、日本全体ではとても大きな成果を上げることができる。

・本日お集まりの皆様、3Rの取組には終わりがなく、継続していくことにこそ意義がある。本大会が、皆様にとって、相互に交流し、また3Rの意義を改めて確認していただく良い機会となることを心から祈念している。

【福田富一栃木県知事】

・本年は栃木県誕生140年の節目の年で、このような大会を栃木で開催できることを大変うれしく思っている。

・今日、地球温暖化を始めとする環境問題への対応が世界的な課題となっている。その解決のためには、資源を有効活用し、環境への負荷を低減する3Rの取組が、これまで以上に重要になっている。栃木県においても、3Rの推進を重点的な取組として位置付け、廃棄物の排出抑制の支援やリサイクル製品の認定、レジ袋の削減など取組を強化している。

・「もったいない」という言葉が世界的にマータイさんによって広められた。

「もったいない」は栃木県では「あつたらもんだ」と言う。今後、この大会の出会いを絆として、より多くの皆様方と3Rの精神を共有し、「あつたらもんだ」の取組の輪を広げてまいりたい。

・県として、魅力あふれるとちぎづくりに取組んでまいるので、御支援をよろしく願います。

【武内和彦3R活動推進フォーラム会長】

・3R活動推進フォーラムは平成18年1月に発足し、現在、自治体53会員、民間団体69会員で構成されている。具体的な活動としては、本日開催の3R推進全国大会、小中学生を対象にした3R促進ポスターコンクール、行政・事業者の協力による環境にやさしい買い物キャン



ペーンといった取組のほか、自治体や民間団体と連携した3Rセミナーの開催など、3R活動を全国で積極的に展開いたしている。

・日本は「資源に乏しい国だ」と言われている。しかし、私たちの町や村を見てもたくさんの製品であふれている。これを廃棄物ではなくて、再び利用可能なものと考えることによって、日本は「極めて資源に富んだ国」という見方もできる。いろいろな素材において、リサイクル、リデュース、リユースを推進していくことによって日本は資源に富んだ国になっていけば、この3Rの取組が大きく進んだと言える。

・関係の皆様方のさらなる3Rの推進に対する取組に対し、心より期待を申し上げる。



②表彰式

○平成25年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰は、先駆的または独創的な取組により循環型社会の形成について顕著な成果を上げている企業、団体または個人を表彰するもので、平成25年度は10企業、7団体、個人4名が受賞した。(写真下左)

○平成25年度3R促進ポスターコンクール表彰

3R促進ポスターコンクールの入賞者のうち、小学生低学年の部(1年生・2年生)、小学生中学年の部(3年生・4年生)、小学生高学年の部(5年生・6年生)、中学生の部の4部門の最優秀賞受賞者に表彰状が授与された。(写真下右)



井上環境副大臣と受賞者による記念撮影

平成25年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

受賞者のご紹介 (順不同・敬称略)

3 R 活動優良企業

株式会社札幌ドーム

北海道

来場者との協働による紙コップなどのリサイクルや、天然芝サッカーグラウンドの芝ごみから砂を分別するなどして廃棄物を削減しています。

株式会社マテック

北海道

使用済自動車・古紙・OA 機器等の再利用および再生利用を長年にわたり実施するとともに、廃プラスチックや木くず、紙くず等から RPF 燃料を生産し、廃棄物の削減や省エネルギーに寄与しています。

太平洋セメント株式会社大船渡工場

岩手県

セメント資源化が困難な災害廃棄物を、水洗除塩し、さらに砂と土に分別するシステムを開発し、東日本大震災で発生した廃棄物の多量かつ適切な処理を進めています。

富士通株式会社小山工場

栃木県

1997 年の ISO 取得を機に、従業員の改善提案や取組の活性化により、ゼロエミッションを達成し、2011 年度には有価率 80% を達成しました。

株式会社 N T T 東日本一群馬

群馬県

高崎市内の小中学校の給食の食べ残しから堆肥を製造し、その堆肥を使って栽培した野菜を学校給食に提供する事業や、不要となった大型家具を修理清掃し定期的に市民に提供する高崎市リユースセンター事業を、市の委託事業として実施しています。

生活クラブ生活協同組合 (神奈川)

神奈川県

1993 年に使い捨て容器をリユース容器へと切り替えたことを皮切りに、2001 年からは牛乳びんのリユースも始め、「ごみを出さない暮らし方」を進めています。

株式会社橋本

岐阜県

1973 年の設立以来、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、資源物において、収集・運搬事業、中間処理事業を展開しているほか、2003 年からは食品リサイクルを目的とした食品廃棄物の運搬も開始するなど、地域における循環型社会推進のフロントランナーとして貢献しています。

株式会社マルサン

大阪府

1968 年の設立以来、一般廃棄物、産業廃棄物の資源化、適正処理に尽力しているほか、2002 年からは廃棄物の RPF 化事業を開始し、製造業に代替燃料として供給するなど、廃棄物燃料化の技術開発を進めています。

オンダン農業協同組合

徳島県

地鶏の生産にともなって排出される鶏糞や加工残渣から肥料を作り、地元農家に提供し高い評価を得ている。また、地元市町村と連携しその肥料を使った野菜のブランド化も進め、畜産と農業両面で生産販売の拡大を進めています。

四国化工機株式会社

徳島県

「おから」の資源循環をテーマに県内食品メーカー、農業生産者、大学、徳島県などと研究会を立ち上げ、徳島のオリジナルブランドの抗生物質代替飼料や良質な肥料を開発し、販売しています。

3 R 活動推進功労 (団体)

砺波市立庄川中学校

富山県

1984 年から生徒会が校区の全世帯を対象に資源回収を実施するとともに、毎年 6 月には地域団体と共同でのごみ拾いを行っています。

かほく市生活学校連絡会

石川県

段ボールコンポスト等の普及やごみ減量についての出前講座など、生活や地域のあり方を見直す活動を、女性の視点に立ち企業等と連携して長年取組んでいます。

敦賀おもちゃ病院

福井県

長年にわたりおもちゃの病院を定期開催するとともに、他地域でのおもちゃの病院立上げやおもちゃ修理ドクター養成講座などを行っています。

鯖江市連合婦人会

福井県

生ごみ減量化や牛乳パックのリサイクル活動等を長年にわたり実施するとともに、家庭ごみの削減に向けたアンケート調査・実験等を実施し、結果から意見提言を行うなど、地域に向けた幅広い啓発活動を行っています。

静岡県医師協同組合

静岡県

医療機関から排出される廃棄物の適正処理、研修会の実施、医療機関と処理業者のコミュニケーション作りを進めています。

名古屋市保健委員会

愛知県

多年にわたり地域のごみ排出指導・減量活動などを実施し、特に 1999 年の名古屋市の「ごみ非常事態宣言」以降は容器包装の分別方法の周知や指導を行うなど、地域における啓発活動の中心的役割を担っています。

NPO 法人エコネット丹後

京都府

使用済みてんぷら油の回収活動や、生成した BDF 燃料の地元農業での利用普及、森林で伐採された竹の堆肥化活動、川や海の美化活動などを行っています。

3 R 活動推進功労 (個人)

室原泰二

福島県

法面緑化基盤材、汚泥発酵肥料の生産・販売を進める一方、リサイクル認定製品の事業者を構成員とするエコ・リサイクル認定事業者協会を設立し、会長として尽力しています。

上岡克己

群馬県

2004 年より群馬県再生資源事業協同組合連合会会長として、また、上部の全国組織である日本再生資源事業協同組合連合会会長としてごみ減量等の啓発活動に尽力しています。

土橋登巳代

静岡県

市の環境学習指導員として地域の環境教育に貢献、さらに「ごみ減量やらまい会」のリーダーとして市のごみ減量啓発活動にも尽力しています。

長谷川武司

鳥取県

鳥取県認定グリーン商品普及促進協会会長、「とっとり環境ネットワーク」の 4R 推進グループコーディネーターなど、ごみ減量、リサイクル等の活動に貢献しています。

③記念シンポジウム

【基調講演】「いかに循環型社会を構築していくか」

慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏

・1955年ごろから経済成長が始まり、高度経済成長で日本が豊かになったが、ごみが増え、最終処分場がなくなってきた。しかし、私たちが一定の努力をして最終処分場を節約した。だから、私たちがどういうライフスタイルをするのか、どういう生活様式をするのか、これが大きなポイントになってくる。

・3Rは、循環型社会を作るための国の基礎です。ごみは、リデュース・リユース・リサイクルをいろいろな形でうまく組みあわせることで減らすことができる。もう一つ大きなことは、一人一人の努力、消費者だけの努力ではなくて、消費者、市町村、国そして企業の努力が重なって、生産物の作り方から変えようとしていることです。

・そこで、システムが重要です。これから3Rを進めていくのに重要なのは民間です。拡大生産者責任や環境配慮設計を基礎として、日本の国内で質の高いリデュース・リユース・リサイクルをしなければいけない。資源循環から物を売るまでの動脈連鎖と使い終わって回収・収集し、リユース、リサイクルする静脈連鎖を繋ぐなければいけない。そのためには、生産者はごみになりにくい設計、リサイクルしやすい設計をしなければいけない。繋がって始めて、私たちの3Rが進む。

・日本の先進的な資源循環技術をなるべく表に出さなければならない。資源はこれからだんだんなくなってくる。パソコンにはいっぱい資源が入っている。ペットボトルやプラスチックは貴重な資源です。その資源を、有効利用する。これが大きなポイントです。その一つの先進的な事例が、小型家電リサイクル法です。

・これまでの個別リサイクル法では、生産者に責任を定めて、それからお金をとってリサイクルしている。ところが、小型家電リサイクル法はそうではなく、自主性を重んじるのがポイント。目標量は年14万トン、認定事業者が中心になって関係各主体が協力し、ビジネスモデルとして成功させる、手を挙げた人には廃棄物処理法上の縛りを若干なくす、という形です。リサイクルがうまくいくかどうかのポイントは、どうやって分別回収するかです。これは皆さんの回収協力がなければできない。是非知恵を絞っていただきたい。

【特別講演】「私の3Rとエコライフ」

シンガーソングライター（3R推進マイスター） 白井貴子氏

【シンポジウム】「3Rの推進でごみゼロ・循環型社会を」

○コーディネータ 慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏

○事例紹介・パネリスト

・「循環型社会の実現に向けて」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長
庄子真憲氏

・「教育の立場から」

宇都宮大学教育学部教授 赤塚朋子氏

・「セメント資源化リサイクルの紹介と課題」

住友大阪セメント株式会社栃木工場環境課長 星野春彦氏

・「芳賀町生ごみ回収堆肥化事業」

栃木県芳賀郡芳賀町住民生活部環境対策課長 稲川嘉明氏



白井氏



庄子氏



赤塚氏



星野氏



稲川氏



3) 名刺交換会

記念シンポジウム終了後、エントランスロビーで、主催関係者や講師・パネリストと大会参加者による名刺交換会が行われた。



(3) 関連イベント

①施設見学

大会当日の午前、3つのコースで施設見学が行われ、参加者は終了後大会に参加しました。

◇日時：平成25年10月17日（木）9：00～12：00

◇見学施設

- A コース 視察先 協栄産業株式会社小山工場 MR・ファクトリー
所在地 栃木県小山市萱橋 1260 番地 18
特 徴 2012年9月に新設されたPETボトルの日本初の再縮合重合反応によるメカニカルリサイクル専用工場。再生PET樹脂100%の飲料用PETボトルとして利用されている。
参加者 23名

- B コース 視察先 東株式会社小松製作所小山工場
所在地 栃木県小山市横倉新田 400
特 徴 2000年11月に建設業界で初めてリサイクル率100%のゼロエミッションを実現し、この小山工場の活動がモデルとなり、現在では国内の全コマツの工場ゼロエミッション活動が展開されている。
参加者 11名

- C コース 視察先 宇都宮市クリーンパーク茂原リサイクルプラザ
所在地 栃木県宇都宮市茂原町 777-1
特 徴 市内で収集した資源ごみ等を処理するリサイクルプラザでは、びんと缶と一緒に収集し、缶を磁選機やアルミ選別機で選別後、びんは自動色選別装置を使って3色（白、茶、その他）に選別している。
参加者 24名



施設見学

- A コース（写真左上）
- B コース（写真右上）
- C コース（写真左）

②平成 25 年度 3 R 促進ポスターコンクール入賞作品展示コーナー

平成 25 年度 3 R 促進ポスターコンクールにおいて入賞した小学生低学年、同中学年、同高学年及び中学生の各部門の最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、佳作 10 点の合計 56 点の作品のパネル展示を 1 階エントランスロビーで行いました。



③小型家電リサイクル法認定事業者合同説明会

環境省関東地方環境事務所主催の小型家電リサイクル法認定事業者合同説明会が 10 月 17 日午前 10 時から午後 4 時まで、大会会場のエントランスロビーで開催されました。



④出展コーナー

1 階エントランスロビーでは環境省、3 R 推進団体連絡会（ガラスびんリサイクル促進協議会・PET ボトルリサイクル推進協議会・紙製容器包装リサイクル推進協議会・プラスチック容器包装リサイクル推進協議会・スチール缶リサイクル協会・アルミ缶リサイクル協会・飲料用紙容器リサイクル協議会・段ボールリサイクル協議会の 8 団体で構成）及び N P O 法人持続可能な社会をつくる元気ネットによる出展コーナーが設けられた。

また、2 階ロビーには、3 R 活動推進フォーラムによる 3 R パネル展示が行われた。



環境省



3 R 推進団体連絡会



N P O 法人持続可能な社会をつくる元気ネット



2 階ロビー 3 R パネル展示

2. 3R促進ポスターコンクール

「循環型社会」の実現のために各種制度の適正な運用と併せてごみの減量とリサイクルの促進に向けて、広く国民に対してその意義を啓発することが何より重要となっており、3R促進ポスターコンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考することにより、「循環型社会」の実現の啓発に資することを目的として、環境省と3R活動推進フォーラムが毎年実施してきた。平成24年度の募集は小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生の4部門で行われ、絵としての出来栄え、3Rのキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度の観点から、各部門で最優秀作品1点、優秀作品3点、佳作10点を選定した。表彰式は第7回3R推進全国大会記念式典で行われ、最優秀賞受賞者の4名に園田環境副大臣より表彰状が授与された。

(1) 応募状況

平成25年5月1日付環境省廃・リ部長通知第1305012号環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長名で各都道府県知事あて「平成25年度3R促進ポスターコンクールの実施について」が通知され、都道府県を通して全国の小、中学校を対象に3Rをテーマとしたポスターの募集が行われた。

締切日の9月13日(金)(郵送、消印有効)までに、3R活動推進フォーラムに送付された応募総数は、小学生低学年955点、小学生中学年2,725点、小学生高学年3,066点、中学生3,648点、総計10,394点であった。(都道府県別・部門別応募数一覧表参照)

(2) 審査

応募作品は環境省廃・リ部長通知に示された3R促進ポスターコンクール実施要領に則り、指定サイズ外のもの、糊等を使用して張り付けた立体性のあるものなど規定に外れるもの、あるいは3Rのキャッチコピーのないものなどを除く粗選別を実施したのち、2回の審査を経て選定された。

1) 一次審査

- 日時 9月25日(火) 13:00~17:30
- 会場 (公財) 廃棄物・3R研究財団会議室
- 審査員 牟田幸秀東京都現代美術館学芸員
- 選定数 小学生低学年の部 50点
小学生中学年の部 51点
小学校高学年の部 54点
中学生の部 59点



一次審査

2) 二次審査

- 日時 9月30日(月) 14:30~16:30
- 会場 法曹会館3階 富士の間
- 審査委員 6名
- 選定数 一次審査で選定された作品から、部門ごとに、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点が選定された。



二次審査

審査委員名簿

氏名	所属
牟田行秀	財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館学芸員
三浦佳子	消費生活コンサルタント(一般社団法人日本冷凍食品協会広報部長)
棚橋 乾	全国小中学校環境教育研究会会長(多摩市立多摩第一小学校校長)
山田智子	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室室長補佐
玉井和仁	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室室企画係長
八木美雄	3R 活動推進フォーラム専任理事

(3) 表彰等

各部門の最優秀受賞者には、平成25年10月17日(木)に宇都宮市内で開催された第8回3R推進全国大会式典において表彰状が授与されるとともに、入賞作品は会場内でパネル展示された。



平成25年度3R促進ポスターコンクール部門別・県別応募数						
No.	都道府県	小学低学年	小学中学年	小学高学年	中学校	計
1	北海道	4	0	2	6	12
2	青森県	0	0	1	14	15
3	岩手県	0	0	28	3	31
4	宮城県	8	26	64	111	209
5	秋田県	1	2	2	11	16
6	山形県	4	12	15	19	50
7	福島県	6	2	33	14	55
8	茨城県	86	185	281	252	804
9	栃木県	84	191	290	166	731
10	群馬県	50	351	235	557	1193
11	埼玉県	69	138	188	79	474
12	千葉県	36	137	191	117	481
13	東京都	16	50	35	170	271
14	神奈川県	11	16	13	7	47
15	新潟県	1	11	6	15	33
16	富山県	1	0	2	1	4
17	石川県	0	3	6	87	96
18	福井県	10	48	81	107	246
19	山梨県	1	3	8	0	12
20	長野県	1	5	26	40	72
21	岐阜県	9	30	27	57	123
22	静岡県	15	66	55	105	241
23	愛知県	429	898	1033	870	3230
24	三重県	0	5	0	10	15
25	滋賀県	1	10	4	60	75
26	京都府	0	11	0	2	13
27	大阪府	3	136	22	48	209
28	兵庫県	3	32	34	152	221
29	奈良県	3	61	11	2	77
30	和歌山県	0	0	9	25	34
31	鳥取県	0	0	0	19	19
32	島根県	0	20	10	8	38
33	岡山県	1	14	19	34	68
34	広島県	7	45	20	59	131
35	山口県	0	4	2	16	22
36	徳島県	9	21	33	38	101
37	香川県	28	63	105	125	321
38	愛媛県	18	57	76	63	214
39	高知県	0	0	0	0	0
40	福岡県	0	0	0	0	0
41	佐賀県	1	11	17	51	80
42	長崎県	29	20	9	22	80
43	熊本県	3	7	28	17	55
44	大分県	0	14	2	10	26
45	宮崎県	4	8	17	21	50
46	鹿児島県	3	12	26	34	75
47	沖縄県	0	0	0	24	24
計	計	955	2725	3066	3648	10394

(4) 入賞作品

小学生低学年（1～2年生）の

◆最優秀賞



群馬県館林市立
第六小学校1年

◆優秀賞



愛知県安城市立
三河安城小学校2年



愛知県北名古屋市立
師勝西小学校2年



栃木県佐野市立
天明小学校2年

◆佳作

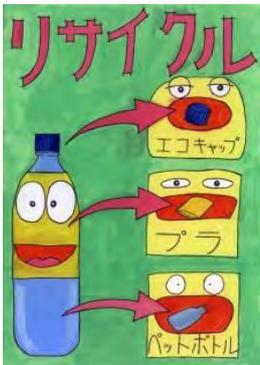


東京都文京区立
窪町小学校2年

岐阜県海津市立
城山小学校1年

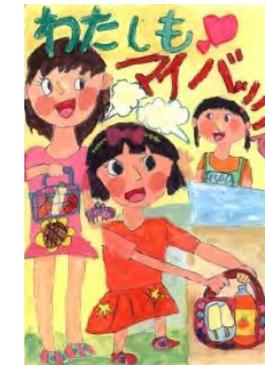


愛媛県今治市立
乃万小学校2年



愛知県西尾市立
米津小学校2年

千葉県旭市立
古城小学校1年



愛媛県伊予郡松前町立
北伊予小学校1年

愛知県知立市立
知立小学校1年



愛媛県伊予郡松前町立
松前小学校1年



静岡県袋井市立
袋井北小学校2年



愛知県北名古屋市立
師勝西小学校1年

小学生中学年（3～4年生）の部

◆最優秀賞



愛知県愛西市立
勝幡小学校 4年

◆優秀賞



埼玉県所沢市立
西富小学校 3年



埼玉県川口市立
鳩ヶ谷小学校 4年



愛媛県四国中央市立
川之江小学校 4年

◆佳作



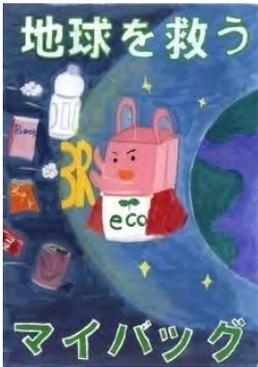
茨城県取手市立
久賀小学校 3年



香川県善通寺市立
東部小学校 4年



茨城県取手市立
山王小学校 4年



愛知県田原市立
清田小学校 4年



大阪府守口市立
春日小学校 4年



栃木県矢板市立
東小学校 4年



大阪府寝屋川市
立桜小学校 4年



千葉県市川市立
富貴島小学校 4年

栃木県下都賀郡壬生町立
壬生北小学校 4年



福島県河沼郡会津坂下町立
坂下東小学校 4年



小学生高学年（5～6年生）の部

◆最優秀賞



愛知県安城市立
錦町小学校5年

◆優秀賞



兵庫県加古川市立志
方西小学校6年

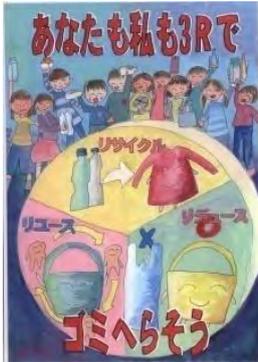


愛知県蒲郡市立
形原小学校6年



愛知県安城市立
明和小学校5年

◆佳作



千葉県茂原市立
茂原小学校5年



群馬県伊勢崎市立
殖蓮小学校6年



愛知県安城市立
錦町小学校5年



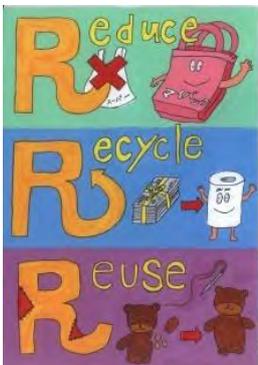
愛知県愛西市立
市江小学校5年



千葉県旭市立
古城小学校5年



香川県さぬき市立
志度小学校6年



香川県高松市立
高松第一小学校6年



愛知県安城市立
三河安城小学校6年



兵庫県加古川市立
志方西小学校6年



岐阜県本巣市立
弾正小学校5年

中学生の部

◆最優秀賞



兵庫県加古川市立
平岡中学校 3年

◆優秀賞



大阪府寝屋川市立
第八中学校 3年



岐阜県羽島郡笠松町立
笠松中学校 2年

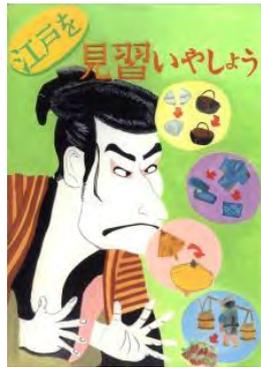


宮城県塩竈市立
第三中学校 3年

◆佳作



岩手県北上市立
北上中学校 2年



愛知県稲沢市立
稲沢西中学校 2年



兵庫県加古川市立
神吉中学校 3年



香川県高松市立
高松第一中学校 2年



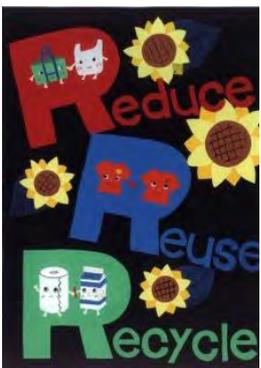
愛知県豊橋市立
中部中学校 3年



愛知県小牧市立
北里中学校 1年



愛知県刈谷市立
雁が音中学校 3年



愛媛県伊予郡松前町立
岡田中学校 2年



愛知県知多郡阿久比町立
阿久比中学校 3年

愛知県知立市立
竜北中学校 2年



(5) 実施要領等

平成25年度3R促進ポスターコンクール実施要領

1. 目的

従来の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、環境保全と健全な物質循環の阻害に結び付く側面を有しています。我が国では、毎年、膨大な量の廃棄物が生ずるとともに、廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正な処理による環境負荷の増大、最終処分場の残余容量のひっ迫等さまざまな局面で深刻な状況が続いています。

私たちがこのような社会経済活動を続けた場合には、廃棄物を受け入れる環境容量の制約や資源制約に突き当たることになり、社会経済の持続可能な発展に支障を来すおそれがあります。

こうした現状を踏まえると、持続可能な社会に向けてさらに努力を傾注し、低炭素社会や自然共生社会に向けた取組とも統合して、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指すとともに3R（廃棄物の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle））をはじめとした取組による、循環型社会の形成を、国内はもとより国際的にも実現していくことが喫緊の課題となっています。

また、循環型社会の形成に向けて、循環型社会形成推進基本法第15条の規定に基づき策定している「循環型社会形成推進基本計画」における国の取組として、地域、学校、家庭、職場等様々な場における連携を図りながら、単に一方的な情報発信にとどまらず、関係主体が相互に学びあえる取組を行っていくことが重要とされています。

本コンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人一人が循環型社会のあり方について考えるきっかけになるとともに、普及啓発にも資することを目的とするものです。

2. 主催

環境省及び3R活動推進フォーラム

3. 募集方法

市町村広報誌等により募集する。

4. 募集区分（昨年度から小学生の部の区分を変更しました。）

- ・小学生低学年の部（1年生、2年生）
- ・小学生中学年の部（3年生、4年生）
- ・小学生高学年の部（5年生、6年生）
- ・中学生の部

5. 締切及び提出方法

- ・応募者（作成者）は、平成25年9月6日（金）（市町村により締め切り日は変更することができる）までに住居を有する市町村循環型社会又は廃棄物担当課に作品（ポスター）を提出する。

- ・市町村は、募集区分ごとに作品（ポスター）を取りまとめの上、平成25年9月13日（金）（消印有効）までに下記の「3R活動推進フォーラム」あて提出する。また、市町村は募集区分ごとの提出数を別紙2により、平成25年9月11日（水）までに都道府県に報告する。
- ・都道府県においては、各市町村より提出のあった報告を別紙1により集計し、市町村から提出された別紙2の（写）とともに、平成25年9月13日（金）までに「3R活動推進フォーラム」まで報告する。

6. 賞の授与

募集区分ごとに下記の賞を授与する。

最優秀賞	1点	賞状
優秀賞	3点	賞状
佳作	10点	賞状

7. 入賞作品の決定・通知

有識者等により構成する審査委員会において、募集区分ごとに優秀と認められた作品に優秀賞を、また、特に優秀と認められた作品に最優秀賞を、さらに、佳作を選定し、10月上旬頃「3R活動推進フォーラム」より都道府県を通じて本人宛通知する。

8. 表彰方法

最優秀賞は、本年10月に開催予定の「3R推進全国大会」において、環境大臣表彰を行う予定。

9. その他

- ・**応募作品は返却しないものとし、著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属するものとする。**
- ・入賞作品は、3R推進活動等のPR用として活用する。
- ・**なお、本件関連資料一式は別途メールにて各都道府県循環型社会関連部局あてに送付したので、ご確認願いたい。**

[提出先]

〒130-0026

東京都墨田区両国3丁目25-5 J E I 両国ビル8F

公益財団法人廃棄物・3R研究財団内

3R活動推進フォーラム あて

TEL 03-6908-7311

FAX 03-5638-7164

e-mail poscon@3r-forum.jp

各都道府県3R促進ポスターコンクール
担当者 殿

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
企画課循環型社会推進室循環企画係長

平成25年度3R促進ポスターコンクールについて

廃棄物・リサイクル行政の推進につきましては、かねてよりご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記については、平成25年5月1日付け環廃企発第1305012号により通知されたところではありますが、ポスターコンクールの応募に当たっては、下記の点に留意の上で応募していただくよう、管内の市町村への周知方よろしく申し上げます。

記

1. 作品（ポスター）の規格について

(1) 作品（ポスター）のサイズは、四つ切り画用紙（380mm×540mm）又は、B3版（364mm×515mm）とします。

なお、指定のサイズで応募されない場合は、無効とします。

(2) 作品の画材については、特に問いませんが、手描きとすることとし、パソコン等を使用した作品、立体性のある作品（糊等を使用して張り付けたもの）は、審査対象外とします。

(3) 応募作品の審査基準は、循環型社会の構築に向けて、3R（廃棄物等のリデュース、リユース、リサイクル）への広範な理解をより一層深めるという観点から、絵画としての評価、3Rのキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度から総合的に審査します。
(地球温暖化問題や水の節約など3Rとは異なったテーマでの応募は無効とします。)

(4) 応募は未発表のオリジナル作品に限ります。他の作品の模倣・類似と認められる作品は、入賞決定後であっても賞を取り消す場合があります。

2. 作品（ポスター）の応募方法等について

(1) 作品（ポスター）の裏面には、必要事項を記入した別紙様式を必ず貼付して下さい。（入賞者への連絡等の都合上、必ず別紙様式に必要事項を記入して作品の裏面に貼付して下さい。）

(2) 作品は、折ったり、丸めたりしないでください。

(3) 作品の応募数については、1学校につき下記の募集区分ごとに10点以内とします。

○募集区分（昨年度から小学生の部の募集区分を変更しました。）

- ・小学校低学年の部（1年生、2年生）
- ・小学校中学年の部（3年生、4年生）
- ・小学校高学年の部（5年生、6年生）
- ・中学生の部

(4) 応募された作品の著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属し、作品は返却いたしません。

(5) 入賞作品につきましては、主催者等（主催者が認める新聞等）が作成する広報用のポスター、パンフレット等に入賞者の氏名や学校名が掲載される場合があります。

3. その他

(1) 作品の提出期限

市町村におかれましては、作品（ポスター）を募集区分ごとに取りまとめの上で、「3R活動推進フォーラム」へ平成25年9月13日（金）までに提出（消印有効）して下さい。（提出期限を越えたものはすべて無効とします。）

また、併せて市町村におかれましては、別紙2により「応募一覧表」を作成の上、募集区分ごとの作品の提出数を平成25年9月11日（水）までに都道府県に報告して下さい。

○提出先：

〒130-0026

東京都墨田区両国3丁目25-5 J E I 両国ビル8F

公益財団法人廃棄物・3R研究財団内

3R活動推進フォーラム あて

TEL 03-6908-7311

FAX 03-5638-7164

e-mail poscon@3r-forum.jp

(2) 作品の応募部数の報告

都道府県におかれましては、県内の各市町村から（1）により報告を受けた別紙2の「応募一覧表」を集計の上、県全体の作品の提出数を別紙1及び市町村から提出された別紙2の（写）とともに、平成25年9月13日（金）までに「3R活動推進フォーラム」まで報告（e-mail または FAX）して下さい。

なお、本件関連資料一式は別途メールにて各都道府県循環型社会関連部局あてに送付しましたので、ご確認ください。

(3) ポスターコンクールの広報

市町村において、各市町村内の小・中学校等に対して「ポスター」募集の広報等を実施される場合は、別紙3「3R促進ポスターコンクール募集について」をご活用下さい。

別紙様式

ふりがな 氏名			
年齢		学年	
作品コメント (50文字以内で、作品に こめられた環境への思 いなどを書いてくださ い。)			
ふりがな 学校名			
ふりがな 学校の住所	〒		
学校の電話番号			

*本票は、必要事項を記入の上、作品（ポスター）の裏面に貼って下さい。

＜平成25年度3R促進ポスターコンクール募集について＞

1. 趣 旨

従来の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、環境保全と健全な物質循環の阻害に結び付く側面を有しています。我が国では、毎年、膨大な量の廃棄物が生ずるとともに、廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正な処理による環境負荷の増大、最終処分場の残余容量のひっ迫等さまざまな局面で深刻な状況が続いています。

私たちがこのような社会経済活動を続けた場合には、廃棄物を受け入れる環境容量の制約や資源制約に突き当たることになり、社会経済の持続可能な発展に支障を来すおそれがあります。

こうした現状を踏まえると、持続可能な社会に向けてさらに努力を傾注し、低炭素社会や自然共生社会に向けた取組とも統合して、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指すとともに3R（廃棄物等の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle））をはじめとした取組による、循環型社会の形成を、国内はもとより国際的にも実現していくことが喫緊の課題となっています。

また、循環型社会の形成に向けて、循環型社会形成推進基本法第15条の規定に基づき策定している「循環型社会形成推進基本計画」における国の取組として、地域、学校、家庭、職場等様々な場における連携を図りながら、単に一方的な情報発信にとどまらず、関係主体が相互に学びあえる取組を行っていくことが重要とされています。

本コンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人一人が循環型社会のあり方について考えるきっかけにするとともに、普及啓発にも資することを目的とするものです。

2. 主 催

環境省及び3R活動推進フォーラム

3. 募集区分

- ・小学生低学年の部（1年生、2年生）
- ・小学生中学年の部（3年生、4年生）
- ・小学生高学年の部（5年生、6年生）
- ・中学生の部

4. 応募規格

- (1) 作品（ポスター）のサイズは、四つ切り画用紙（380 mm×540 mm）又は、B3版（364 mm×515 mm）とします。

なお、指定のサイズで応募されない場合は、無効とします。

- (2) 作品の画材については、特に問いませんが、手描きとすることとし、パソコン等を使用した作品、立体性のある作品（糊等を使用して張り付けたもの）は審査対象外とします。
- (3) 応募作品の審査基準は、循環型社会の構築に向けて、3R（廃棄物等のリデュース、リユース、リサイクル）への広範な理解をより一層深めるという観点から、絵画としての評価、3Rのキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度から総合的に審査します。（地球温暖化問題や水の節約など3Rとは異なったテーマでの応募は無効とします。）
- (4) 応募は未発表のオリジナル作品に限ります。他の作品の模倣・類似と認められる作品は、入賞決定後であっても賞を取り消す場合があります。

5. 作品（ポスター）の応募方法等について

- (1) 作品（ポスター）の裏面には、必要事項を記入した別紙様式を必ず貼付して下さい。
（入賞者への連絡等の都合上、必ず別紙様式に必要事項を記入して作品の裏面に貼付して下さい。）
- (2) 作品は、折ったり、丸めたりしないでください。
- (3) 作品の応募数については、1学校につき下記の募集区分ごとに10点以内とします。

○募集区分

- ・ 小学校低学年の部（1年生、2年生）
 - ・ 小学校中学年の部（3年生、4年生）
 - ・ 小学校高学年の部（5年生、6年生）
 - ・ 中学生の部
- (4) 応募された作品の著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属し、作品は返却いたしません。
- (5) 入賞作品につきましては、主催者等（主催者が認める新聞等）が作成する広報用のポスター、パンフレット等に入賞者の氏名や学校名が掲載される場合があります。

6. 締め切り

平成25年9月6日（金）

7. 応募先

お住まいの市町村循環型社会又は廃棄物担当課まで送付してください。

8. 表彰

応募区分ごとに、最優秀賞1点、優秀賞3点及び佳作10点を選定し、賞状を授与します。また、最優秀賞受賞者は、本年10月に開催予定の「3R推進全国大会」において、環境大臣表彰を行う予定としています。

3. 平成25年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

(1) 当フォーラムからの推薦と受賞

環境省が実施する循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は、先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体を表彰するもので、平成25年度では、企業10件、団体7件および個人4件の計21件が受賞となった（受賞者一覧は37ページに掲載）。

この「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」は、平成18年7月7日環廃対発第060707002号環境大臣通知による実施要領（別表参照）に基づき、3R活動推進に功労のあった個人及び団体、並びに3R活動優良企業を表彰するもので、被表彰者決定の手続きについては、「被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。被表彰者の推薦については、（中略）毎年7月1日までに大臣あて行うものとする。」とされている。

平成25年度の3R活動推進フォーラムの推薦では、企業3件と個人1件の合計4件が受賞となった。

当フォーラムからの受賞者は以下の通り（カッコ内は推薦団体）。

○当フォーラム推薦による受賞

（企業）

株式会社マテック（一般社団法人全国清涼飲料工業会推薦）

株式会社橋本（一般社団法人全国清掃事業連合会推薦）

株式会社マルサン（一般社団法人全国清掃事業連合会推薦）

名古屋市保健委員会（社団法人全国地区衛生組織連合会推薦）

（個人）

川添 克子

(2) 表彰式と受賞者の功績

平成25年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は10月17日（木）に宇都宮市内で開催された第8回3R推進全国大会で表彰式が行われた（写真）。



循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

I 目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

II 表彰の対象

次の1から6までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生労働大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者（地区）を除く。

1 循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

(1) 3R活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

(2) 3R活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

(3) 3R活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

(略)

III 被表彰者の決定

1 被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、IIに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式1から8により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年7月1日まで（平成18年度に限り8月1日まで）に大臣あて行うものとする。

2 表彰の方法

表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所は、別途、被表彰者に通知するものとする。

4. 3R推進地方大会後援等の協力

地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に後援等の協力を行った。

(1) 3R推進北海道大会 2013 (北海道地方環境事務所)

- 日程 平成 25 年 10 月 26 日 (土) 10:00~18:00
- 会場 イーアス札幌 Aタウン1階 イーアスコート (札幌市白石区東札幌)
- 内容 3R トークセッション、ステージイベント、3R 体験コーナー(リユース・リサイクルコーナー、ワークショップ、3R 推進パネル展示、クイズラリーなど)



トークセッション(左)と3Rクイズ大会(右)

(2) 3R推進東北大会 2013(東北地方環境事務所)

- 日程 平成 25 年 10 月 24 日(木) ・25(金) 10:00~17:00
平成 25 年 10 月 26 日(土) 10:00~16:30
- 会場 夢メッセみやぎ(宮城県仙台市宮城野区港 3 丁目 1-7)
- 内容 ステージイベント、ブースイベント、ワークショップ、自治体・市民団体の取り組み紹介、3R いいね! 宣言、クイズ及びアンケート
(エコプロダクツ東北 2013 同時開催)



ワークショップ((左)と3Rいいね!宣言(右)

(3) 第 8 回 3 R 推進関東大会 (関東地方環境事務所)

- 日程 ①平成 25 年 9 月 29 日(日) 10:00~15:00
②平成 25 年 10 月 5 日(土) 9:30~16:00
- 会場 ①「もったいないフェア 2013 (主催: 宇都宮市)」会場内 (宇都宮城址公園)
②「エコ・もりフェア 2013 (主催: 栃木県)」会場内 (栃木県子ども総合科学館)

- 内容 ブースイベント（3R解説展示、クイズラリー及びアンケート、お買いものゲーム、ワークショップコーナー）



クイズラリー(左)とワークショップコーナー(右)

(4) 平成 25 年度 3 R 推進 中部 地方 大会 (中部 地方 環境 事務所)

1) 宇奈月麦酒館感謝祭オータムフェスタ

- 日程 平成 25 年 11 月 23 日 (土)・24 日 (日)
- 会場 宇奈月ビール株式会社宇奈月麦酒館 (富山県黒部市)
- 内容 食品リサイクルの取組紹介パネル展示、アンケート、普及啓発グッズの配布、食品リサイクルに活用されている食品残さを実際に見ていただくためのビール工場見学ツアー

2) 「食品リサイクル推進サポーター」制度説明会

- 日程 平成 25 年 11 月 30 日 (土)
- 会場 名古屋文化短期大学のキッチンスタジオ (愛知県名古屋市東区)
- 内容 「めぐりふード」創作料理 の試食懇談会、「食品リサイクル推進サポーター」制度の説明、「めぐりふード」を活かしたお弁当の企画についての説明



ビール工場見学ツアー(左)と「食品リサイクル推進サポーター」制度説明会(右)

(5) 平成 25 年度 3 R 推進 近畿 ブロック 大会 (近畿 地方 環境 事務所)

- 日程 平成 25 年 11 月 23 日 (祝・土)
- 会場 キンチョウスタジアム (大阪市東住吉区长居公園 1-1)
2013 Jリーグ ディビジョン 1
セレッソ大阪 vs サンフレッチェ広島 試合会場
- 内容 特設ブース「エコステーション」を設置 (3Rパネル展示、アンケート回答者を対象)

に抽選で2千名にグッズ配布)、スタジアム内での電光掲示板、会場アナウンスを活用により、リユースカップ使用体験に関する告知、ハーフタイム時にスタジアム内を一周しながら横断幕による3Rの普及啓発



エコステーション(左) 電光掲示板による告知(中)回収ボックス内のリユースカップ(右)

(6) 3R推進中国四国地方大会 (in 岡山) (中国四国地方環境事務所)

- 日程 平成25年10月26日(土) 10:00~17:00
- 会場 岡山コンベンションセンター1階ロビー (岡山県岡山市北区駅元町14-1)
- ※フォーラムは、岡山コンベンションセンター1階イベントホールで開催されました。
- 内容 展示コーナー(3R、地球温暖化、外来生物問題など)、ワークショップ(リサイクル紙すき、マイバッグづくり、ゲームやクイズの体験型キャラクターショー)、講演会(資源の無駄や有効活用にとまらず地域産業の活性化も目指した内容での講演)



リサイクル紙すき(左)とキャラクターショー(右)

(7) 3R推進中国四国地方大会 (中国四国地方環境事務所高松事務所)

- 日程 ①平成25年10月31日(木)・11月1日(金)
②平成25年11月2日(土)
- 会場 ①サンポートホール高松(高松シンボルタワー内ホール棟)
②さぬきこどもの国(こども劇場)



アンケートの実施(左)とキャラクターショー&3Rクイズ(右)

- 内容 環境省展示ブース（家電リサイクル法の仕組みを中心にしたパネル展示、パンフレット配布）、アンケート、キャラクターショー&3Rクイズ、家電カットモデルの展示ブース等

(第57回生活と環境全国大会と同時開催)

(8) 平成25年度3R推進九州ブロック大会（九州地方環境事務所）

- 日程 平成25年9月14日（土）・9月15日（日） 10:00~16:00

- 会場 「2013九州B-1グランプリ in 日田大会」会場内(大分県日田市)
日田市中心市街地（三隈川公園・亀山公園・中央公園）

- 内容 ワークショップ(マイ箸作り)、クイズラリー&アンケート、マンガパネル展示、B-1グランプリ会場内ごみステーションのサイン(漫画家 高田美保氏オリジナル分別イラストの貼り付け)、使用済み割り箸の竹墨への提案(B-1グランプリで使用した割り箸を竹墨にリサイクルすることを提案)



ワークショップ（左）とB-1グランプリの会場内ごみステーション（右）

5. 環境にやさしい買い物キャンペーン

環境省、経済産業省と3R活動推進フォーラムは10月1日～31日の期間、「平成25年度環境にやさしい買い物キャンペーン」を共同実施した。これは、循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境についての理解を深めるとともに、循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革を促すことを目的とするもので、キャンペーン期間中、消費者に対して、①買い物袋の持参②簡易包装への協力③環境配慮型商品の購入④量り売り商品の購入、等と呼びかけるとともに、所管内にある又は取引関係のある流通事業者、小売事業者等に対して、①買い物袋の持参のPR②包装の簡

(1) 参加都道府県

都道府県	キャンペーン名称	担当部課名
北海道	3R推進キャンペーン	環境生活部環境局循環型社会推進課
青森	3R推進キャンペーン	環境生活部 環境政策課
岩手	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部 資源循環推進課
宮城	マイ・バッグ・キャンペーン	環境生活部 循環型社会推進課
秋田	レジ袋削減・マイバッグ推進運動	生活環境部温暖化対策課調整・省エネルギー班
山形	ごみゼロやまがた推進県民会議	環境エネルギー部循環型社会推進課
福島	マイバッグ推進デーキャンペーン	生活環境部環境共生課
茨城	平成25年度環境にやさしい買い物キャンペーン	生活環境部廃棄物対策課
栃木	マイ・バッグ・キャンペーン	環境森林部地球温暖化対策課
群馬	群馬県環境にやさしい買い物スタイル普及促進	環境森林部環境政策課
埼玉	マイバッグ・マイボトル利用促進運動	環境部資源循環推進課
千葉	環境にやさしい買い物キャンペーン～ちばエコスタイル～	環境生活部資源循環推進課
東京	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境局廃棄物対策部資源循環推進課
神奈川	レジ袋削減マイバッグキャンペーン(持っています エコの心と マイバッグ)	環境農政局環境保全部資源循環課
新潟	平成25年度3Rキャンペーン	県民生活・環境部消費者行政課
富山	環境にやさしい買い物キャンペーン	生活環境文化部県民生活課
石川	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部地球温暖化対策室
福井	環境にやさしい買い物キャンペーン	安全環境部循環社会推進課
山梨	環境にやさしい買い物キャンペーン	森林環境部森林環境総務課
長野	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部環境政策課
岐阜	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	環境生活部廃棄物対策課
静岡	環境にやさしい買い物キャンペーン	くらし・環境部環境局廃棄物リサイクル課
愛知	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部環境活動推進課
三重	ごみゼロ社会の普及啓発	環境生活部廃棄物対策局廃棄物・リサイクル課
滋賀	平成25年度環境にやさしい買い物キャンペーン	琵琶湖環境部循環社会推進課
京都	平成25年度クリーンリサイクル運動	文化環境部環境・エネルギー局循環型社会推進課
大阪	「環境にやさしい買い物キャンペーン」	環境農林水産部みどり・都市環境室地球環境課
兵庫	「地球環境時代！新しいライフスタイル展開キャンペーン」	農政環境部環境創造局 環境政策課
奈良	マイバッグキャンペーン	くらし創造部景観・環境局環境政策課
和歌山	平成25年度環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部環境政策局環境生活総務課
鳥取	平成25年度環境にやさしい買い物キャンペーン	生活環境部環境立県推進課グリーンニューディール推進室
島根	しまねレジ袋削減キャンペーン	環境生活部環境政策課
岡山	環境にやさしい買い物キャンペーン(岡山県統一ノーレジ袋デー)	生活環境部循環型社会推進課資源循環推進班
広島	「ひろしま環境の日」行動宣言(エコな買い物)の募集	環境県民局環境部環境政策課
山口	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部廃棄物・リサイクル対策課
徳島	マイバッグ持参キャンペーン	徳島県 県民環境部 環境首都課
香川	買い物でエコ！キャンペーン2013	危機管理総局くらし安全安心課
愛媛	環境にやさしい買い物キャンペーン	県民環境部環境局循環型社会推進課
高知	男も(女も)持つぞ！マイバッグキャンペーン2013	新エネルギー推進課
福岡	マイバッグキャンペーン	環境部 循環型社会推進課
佐賀	佐賀県マイバッグキャンペーン	くらし環境本部 地球温暖化対策課
長崎	ながさきマイバッグキャンペーン	環境部未来環境推進課
熊本	熊本県マイバッグキャンペーン	環境生活部環境局廃棄物対策課
大分	マイバッグを持ってお買い物に行こう♪キャンペーン	生活環境部地球環境対策課
宮崎	みやざきマイバッグキャンペーン	環境森林部循環社会推進課
鹿児島	鹿児島県マイバッグキャンペーン	環境林務部廃棄物・リサイクル対策課
沖縄	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部 環境整備課

易化③環境配慮型商品の積極的な販売④量り売りによる商品の販売、等と呼びかけた。

キャンペーンの実施に当たっては、ポスターデザイン3種と統一デザインの電子データが、参加都道府県及び流通事業者に送付された。参加自治体は47都道府県、流通事業者は50社52,062店舗となった。

(2) 参加流通事業者

No.	事業者名	キャンペーン名称	担当部署
1	株式会社イズミ	環境にやさしい買い物キャンペーン	業務課
2	イズミヤ株式会社	10月エコ月間	エコロジー推進部
3	株式会社イトーヨーカ堂	環境にやさしい買い物キャンペーン	(株)セブン・アイ・ホールディングス総務部資源リサイクル
4	株式会社いなげや	環境にやさしい買い物キャンペーン	社長室
5	株式会社伊予鉄高島屋	マイバッグスタンプサービス ダブルスタンプキャンペーン	総務グループ
6	株式会社エコス	環境にやさしい買い物キャンペーン	秘書室長(環境責任者)
7	株式会社小田急百貨店	マイバッグキャンペーン	総務部CSR担当
8	株式会社金沢名鉄丸越百貨店	マイバッグ利用促進キャンペーン	総務人事部総務人事環境担当
9	株式会社川徳	平成25年度環境にやさしい買い物キャンペーン&3R推進月間	C S R室経営品質・T S O推進担当
10	株式会社近鉄百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン	C S R推進部
11	株式会社九九プラス	レジ袋削減キャンペーン	
12	株式会社京成ストア	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務担当
13	株式会社県民百貨店	熊本県マイバッグキャンペーン	総務部環境物流担当
14	生活協同組合コープあいづ	マイバッグ推進デーキャンペーン	役員室
15	国分グローサースチェーン株式会社	レジ袋削減キャンペーン	※
16	株式会社ココストア	レジ袋削減キャンペーン	※
17	株式会社サークルKサンクス	レジ袋削減キャンペーン	※
18	株式会社スリーエフ	レジ袋削減キャンペーン	※
19	株式会社セイコーマート	レジ袋削減キャンペーン	※
20	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	レジ袋削減キャンペーン	※
21	株式会社そごう・西武	環境にやさしい買い物キャンペーン	C S R推進室
22	株式会社ダイエー	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務部
23	株式会社大丸松坂屋百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン	CSR推進室 社会活動推進担当
24	株式会社高松三越	買い物でエコ! キャンペーン2013	総務部 業務・経理マネジャー
25	株式会社津松菱		営業推進部マネジャー
26	株式会社東急ストア	環境にやさしい買い物キャンペーン	経営統括室総務
27	株式会社東急百貨店	エコポイントダブルプレゼント田キャンペーン	総務部環境担当
28	株式会社東武宇都宮百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン月間	総務部業務監理課
29	株式会社東武百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務部業務監理担当
30	株式会社とりせん	マイバック、マイバスケットの利用促進	営業企画部
31	株式会社函館丸井今井	3R推進キャンペーン	業統括部 営業推進担当
32	株式会社はやし	大阪府「環境にやさしい買い物キャンペーン」及び「NO!!レジ袋デー」	総務部長
33	株式会社阪急阪神百貨店	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務室総務部
34	株式会社阪食	マイバッグ持参キャンペーン	総務部
35	株式会社藤崎	マイバッグキャンペーン	総務担当
36	株式会社プランタン銀座	環境にやさしい買い物キャンペーン	業務推進部
37	株式会社ファミリーマート	レジ袋削減キャンペーン	※
38	株式会社ベイシア	環境にやさしい買い物キャンペーン	流通技術研究所 営業システム本部 第一グループ担当
39	株式会社平和堂	平和堂 環境にやさしい買い物キャンペーン	C S R推進室
40	株式会社ポプラ	レジ袋削減キャンペーン	※
41	株式会社丸広百貨店	マイバッグ・簡易包装推進キャンペーン	総務人事部総務担当部
42	株式会社日越伊勢丹ホールディングス	環境にやさしい買い物キャンペーン月間	業務本部 業務推進部 管財担当
43	株式会社ミニストップ	レジ袋削減キャンペーン	※
44	山崎製パン株式会社デイリーヤマザキ事業統括本部	レジ袋削減キャンペーン	※
45	株式会社山形屋	環境にやさしい買い物キャンペーン	総務部環境対策担当
46	株式会社ヤマトヤシキ	環境にやさしい買い物キャンペーン	営業本部企画室 広告宣伝部長
47	ユニー株式会社	環境にやさしい買い物キャンペーン	グループ環境社会貢献部
48	株式会社ヨークマート	世界に1つだけのマイバッグを贈ろう!(レジ袋辞退率UP強化月間)	企業行動委員会
49	株式会社ローソン	レジ袋削減キャンペーン	※
50	株式会社良品計画	FUKU-FUKU プロジェクト	企画室環境広報担当

※は一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会まとめ

(3) 実施要領

平成25年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」実施要領

1. 趣旨

循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境についての理解を深めるとともに、循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革を促すことを目的として、「環境にやさしい買い物キャンペーン」ほか3Rの推進に資するキャンペーンを3R推進月間の取組の一環として実施し、国民への環境教育等を推進する。

実施に当たっては、都道府県及び流通事業者等による取組を尊重しつつ、同一の時期に同一の趣旨の取組を行うことにより、各主体による取組を一層効果的なものとする 것을 目指す。

2. 実施期間

原則として、平成25年10月1日から平成25年10月31日までに行う。

3. キャンペーン参加者による取組

(1) キャンペーンの趣旨に賛同する都道府県、流通事業者等は、共同実施主体として、独自に「環境にやさしい買い物キャンペーン」ほか3Rの推進に資するキャンペーンを実施する。

(2) 共同実施主体は、キャンペーン期間中、消費者に対して以下のような取組を呼びかける。

- ① 買い物袋の持参
- ② 簡易包装への協力
- ③ 環境配慮型商品の購入
- ④ 量り売り商品の購入

(3) また、所管内にある又は取引関係のある流通事業者、小売事業者等に対して以下のような取組を呼びかけるとともに、自ら実行できるものについて率先して取り組む。

- ① 買い物袋の持参のPR
- ② 包装の簡易化
- ③ 環境配慮型商品の積極的な販売
- ④ 量り売りによる商品の販売

4. キャンペーンに関する事務

(1) キャンペーンの手事は、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会形成推進室が行う。

(2) 同室は、各都道府県の独自性を尊重しつつ、全国的な統一感を保つため、経済産業省及び3R活動推進フォーラムと連携して、以下の取組を実施する。

- ① 都道府県、流通事業者等共同実施主体への呼びかけ、連絡調整等
- ② キャンペーン用ポスターデザインの提供等、普及啓発のための素材の作成、提供等
- ③ キャンペーンのPR活動（報道機関を通じた宣伝、環境省等実施主体のHPへの掲載等）
- ④ 実施結果のとりまとめ及び公表

(4) PRキャラクター・統一デザインポスター

キャンペーンキャラクターのデータの提供について

環境省では、本キャンペーンをPRするため、また、御協力いただいている地方自治体、事業者等から本キャンペーンに参加していることのPRに御活用いただけるよう、キャンペーンキャラクター「こまめちゃん」を作成し、電子データを提供しております。

キャラクターは御自由に御使用いただけます。電子データが必要な場合は御連絡ください。
 なお、「こまめちゃん」の著作権等は環境省が保有するため、編集・加工はしないでください。



こまめに買い物袋を持ち歩きましょう。



包装はできるだけ少ないものを選びましょう。



容器は再使用できるものを選びましょう。



長く使えるものを選びましょう。



資源やエネルギーを消費しないものを選びましょう。



再生品を選びましょう。

6. 連携・協働事業

都道府県等地方自治体、事業者団体、NPO/NGO 等と連携・協働して行うセミナーや研修会等を環境省及び4自治体・8団体と13回開催した。このうち、環境省の3R推進企画運營業務として4自治体・3団体と5回実施した。

(1) 循環型社会形成推進セミナーの開催

1) 小型家電リサイクル法セミナー

- 共催先 静岡県
- テーマ 信頼と連携で実現するリサイクルの輪
- 開催日 平成25年7月16日(金) 13:15~16:30
- 会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
- 内容

<第1部>

- ・基調講演「小型家電リサイクル法の推進について」
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室 両瀬真和氏

・事例発表

「神奈川県相模原市の取組」

相模原市環境経済局資源循環部資源循環推進課 課長
佐藤清隆氏

「千葉県野田市の取組」

野田市環境部清掃計画課 係長 代田明洋氏

<第2部>

認定事業者と市町との個別相談会

株式会社アビツ(愛知県名古屋市)、株式会社紅久商店(愛知県豊橋市)

- 参加者 約80名



両瀬氏

2) 循環・3Rシンポジウム

- 共催先 NPO法人持続可能な社会をつくる
元気ネット
- テーマ 使用済小型家電リサイクルの推進に向けて
- 開催日 平成25年8月1日(木) 13:00~16:20
- 会場 公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室
- 内容

<第1部>

- ・基調講演「小型家電リサイクル制度の本格実施に向けて」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室長 庄子真憲氏

<第2部>

- ・話題提供



「小型家電リサイクルとループづくり」

中部リサイクル運動市民の会 浅井直樹氏

「認定事業者としての小型家電リサイクルの取り組み」

リーテム(株) P I 事業推進室 室長 山崎隆久氏

「小型家電リサイクルー豊田市の取り組みー」

愛知県豊田市環境部ごみ減量推進課 副課長 近藤理史氏

<第3部>

・シンポジウム

庄子氏



コーディネーター： 崎田裕子氏（NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット理事長）

パネリスト： 庄子真憲氏（環境省）、浅井直樹氏（中部リサイクル運動市民の会）、

中島賢一氏（リーテム(株)）、近藤理史氏（愛知県豊田市）

□参加者 56名



シンポジウムのもよう

3) 廃棄物処理処分に伴う副生塩対策セミナー

□共催先 NPO法人環境技術支援ネットワーク、
公益財団法人廃棄物・3R研究財団

□テーマ 廃棄物処理処分に伴う副生塩対策

□開催日 平成25年8月27日(火) 13:00~16:25

□会場 公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室

□内容

「副生塩問題の現状と課題および対策」

福岡大学大学院 樋口壯太郎氏

「副生塩の無隔膜電解法による滅菌剤(エコ次亜)利用技術」

住友電工(株) 牛越健一氏

「焼却施設における副生塩の有効利用事例」

三井造船(株) 杉本富男氏

「副生塩の発生とエコ次亜利用の経済性」

エイト日本技術開発(株) 横山睦正氏

□参加者 46名



樋口氏

4) 平成25年度公益財団法人廃棄物・3R研究財団、3R活動推進フォーラム年次報告会

□共催先 公益財団法人廃棄物・3R研究財団

□開催日 平成25年9月20日(金) 13:10~16:20

□会 場 江戸東京博物館 会議室

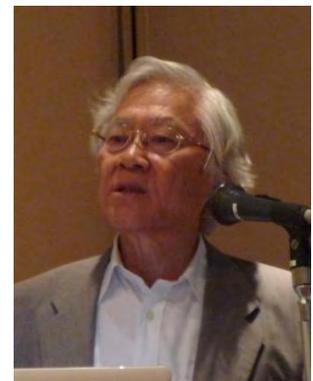
□内 容

- ・特別講演「廃棄物行政・リサイクル行政の動向」
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長補佐 松田尚之氏
- ・基調講演「高効率ごみ発電の今後について」
鳥取環境大学サステナビリティ研究所 所長 田中勝氏
- ・調査研究概要報告
「災害廃棄物対策指針の策定～ごみ焼却施設に係る大震災対策を参考に～」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 上席研究員 河村栄作氏
「災害廃棄物処理等に関する情報整理及び災害対応方策～特定一般廃棄物処理に係る課題を含めて～」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 特別研究員 森朋子氏
- ・特別報告（頑張り関西WG報告）「メタン発酵システムの社会的普及」
頑張り関西WG（日立造船（株）環境技術企画部 部長）近藤守氏

□参加者 84名



松田氏



田中氏

5) 資源リサイクルフォーラム

- 共催先 環境省、静岡県、
静岡県環境衛生自治推進協会連合会
- テーマ ものを大切にする暮らしを考える
- 開催日 平成25年10月16日（水）14:00～16:00
- 会 場 静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ中ホール

□内 容

- ・基調講演「地球と遊ぼう！～大地に繋ぐ愛の詩」
シンガーソングライター 白井貴子氏
- ・特別講演 「3Rで広げる環境のまちづくり」
ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田裕子氏

□参加者 400名



白井氏



崎田氏

6) 廃棄物減量等推進員関東交流大会

- 共催先 ごみ減量ネットワーク、NPO法人地域交流センター
- テーマ 信頼と連携で共創する地域循環圏
- 開催日 平成25年10月18日(火) 13:00~17:00
- 会場 栃木県総合文化センター特別会議室
- 内容

- ＜第1部＞ 廃棄物減量等推進員活動事例発表
栃木県那須塩原市、東京都武蔵野市、東京都北区
- ＜第2部＞ 交流会(グループワーク)

- 参加者 20名



7) レジ袋削減5周年/とやまエコ・ストア制度スタート記念シンポジウム

- 共催先 環境省、富山県
- 開催日 平成25年10月20日(日) 10:40~12:00
- 会場 富山市体育文化センター
- 内容

- ・基調講演「循環型社会推進について」
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長
梶原成元氏
- ・基調講演「思いは地球規模、行動は足元から」
環境漫才家 林家ライス・カレー子氏
- ・レジ袋削減5周年取組みの成果
元富山県レジ袋削減推進協議会会長 宮下尚氏
- ・取組み事例紹介 株式会社ヒラキストア、株式会社ヤングドライ

- 参加者 200名



梶原氏

8) 廃棄物減量化講習会〜ゴミゼロ大作戦〜

- 共催先 環境省、京都府、(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター
- 開催日 平成25年10月31日(木)
14:00~16:30
- 会場 綾部市中央公民館中央ホール
- 内容

- ・基調講演「廃棄物3Rの最近の動向と求められる企業の対応」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団
調査部長 藤波博氏
- ・講演「企業の廃棄物減量化対策を支援する」
一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援
センターセンター長 新井吉久氏
- ・事例発表「廃棄物の減量・リサイクルの取り



組み」

株式会社さとう総務部次長兼環境保全推進課長 木村道明氏

□参加者数 85名

9) 3R推進セミナー

□共催先 環境省、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

□テーマ 地域循環圏から見る市民力と地域パートナーシップ

□開催日 平成26年2月4日(火) 13:00~16:30

□会場 スクワール麹町5階「芙蓉」

□内容

<第1部>「地域づくりから学ぶ連携・協働の事例」

・基調講演「“地域循環圏”の取組と今後への期待」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課

リサイクル推進室長 庄子真憲氏

・事例紹介

「過疎高齢化地域で若者が運営する都市との交流

・支えあいの仕組み」

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部 関原剛氏

「リユース・リサイクルの循環型地域連携づくり」

NPO法人WE21ジャパン 藤井あや子氏

「地域力を活かした持続可能なまちづくり」

NPO法人生活工房つばさ・游 高橋優子氏

<第2部>総合討論「地域コミュニティから資源が循環する社会づくりを」

コーディネーター:NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 崎田裕子氏

パネリスト:庄子真憲氏、関原剛氏、藤井あや子氏、高橋優子氏

□参加者数 63名



庄子氏



10) 3R推進地方セミナー

□共催先 環境省、佐賀市

□テーマ バイオマスの推進を目指して

□開催日 平成26年2月19日(水) 13:30~16:10

□会場 佐賀市清掃工場会議室

□内容

<第I部>

・基調講演「“地域循環圏”の取組と今後の期待」



環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室係長
玉井和仁氏

＜第Ⅱ部＞事例発表

- ・「バイオマス複合利活用事業で資源循環を推進」
（有）鳥栖環境開発総合センター 総務部 伊地知武郎氏
- ・「循環型社会を目指した4R運動の推進」
グリーンコープ共同体 田中裕子
- ・「佐賀市バイオマス産業都市構想と展望」
佐賀市環境部循環型社会推進課 井口浩樹

□参加者数 75名



玉井氏

11) 第1回容器包装の3Rに関する市民・自治体等との意見交換会

- 共催先 3R推進団体連絡会
- 開催日 第1回 平成25年7月26日（金）13:00～16:40
- 会場 岡山コンベンションセンター
ママカリフォーラム405（岡山市内）

□内容

＜第1部＞事例発表

- ・岡山県環境文化部循環型社会推進課 課長 岡村忠彦氏
- ・岡山市環境局環境事業課業務第2係 主査 小玉利昭氏
- ・NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー 藤井園苗氏
- ・3R推進団体連絡会 幹事 酒巻弘三氏

＜第2部＞グループ討論

- ・3つのワーキンググループによる意見交換
- ・全体総括（グループ報告、全体報告）

□参加者 40名



岡村氏

12) 第2回容器包装の3Rに関する市民・自治体等との意見交換会

- 共催先 3R推進団体連絡会
- 開催日 平成25年10月25日（金）13:00～16:40
- 会場 富山国際会議場多目的会議室 203、204会議室（富山市内）
- 内容：

＜第1部＞事例発表

- ・富山県生活環境文化部環境政策課廃棄物対策主査 森友子氏
- ・公益財団法人廃棄物・3R研究財団 調査部長 藤波博氏
- ・環境教育ネットワークとやまエコひろば
環境教育コーディネーター 本田恭子氏
- ・3R推進団体連絡会幹事 幸智道氏



森氏

<第2部>グループ討論

- ・3つのワーキンググループ
による意見交換
- ・全体総括（グループ報告、全体報告）

□参加者 40名



13) 第3回容器包装の3Rに関する市民・自治体等との意見交換会

- 共催先 3R推進団体連絡会
- 開催日 平成26年1月31日（金）10:00～16:40
- 会場 国際ファッションセンター（KFC）11階115会議（都内）
- 内容

<第1部>事例発表

- ・中野区環境部 ごみゼロ推進分野資源担当係長 根元宏太氏
- ・さいたま市環境局資源循環推進部資源循環政策課 課長補佐 島村和久氏
- ・NPO法人 FoE Japan 瀬口亮子氏
- ・主婦連合会 環境部長 有田芳子氏
- ・株式会社エコス 秘書室長 境憲一郎氏



根元氏

<第2部>グループ討論

- ・意見交換（4分科会、テーマ別）
- ・全体総括（分科会報告、全体報告）

□参加者 42名



(4) 後援・協賛等の協力

フォーラム会員団体などの関連事業に後援・協賛する等連携・協力を積極的に努めた。
（詳細は9～11ページに掲載）

6月9日（日）に松江市白潟公園で行われた散乱防止美化キャンペーン（スチール缶リサイクル協会主催）に参加、終了後、松江駅前
で美化啓発活動を行った。



7. 広報・普及事業

展示会への出展、インターネットを活用した情報発信、出版物の発行、新聞・雑誌への情報提供及び広告掲載等を行った。(詳細は 11～13 ページに掲載)

(1) 展示会への出展

①エコライフ・フェア 2013 (写真右上)

- 開催日時 平成 25 年 6 月 6 日 (土) ～2 日 (日)
- 開催場所 東京都立代々木公園
- 出展内容 パネル展示・3Rクイズ・資料配布



②エコ・もりフェア 2013 (写真右下)

- 開催日時 平成 25 年 10 月 5 日 (土)
- 開催場所 栃木県子ども総合科学館
- 出展内容 パネル展示・3Rクイズ・資料配布



(2) 出版物の発行

「3R活動推進フォーラム年次報告書」「3R活動先進事例集 2013」「平成 25 年度環境にやさしい買い物キャンペーン実施報告書」「財団・3Rだより」等を発刊した。(詳細は 12 ページに掲載。3R活動推進フォーラムホームページで全ページ見られます。)



(3) インターネットを活用した情報発信

- ①ホームページで各種お知らせ、各種刊行物の案内・閲覧等の情報を発信
- ②メルマガ「3R・廃棄物ニュース」を毎月 3 回配信
- ③会員向けに事務局の業務状況を「事務局通信」として 8 回メールで配信

(4) クリアファイル等の作成

平成 24 年度 3R 促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインしたクリアファイルを作成、

希望者に配布した。



ク
リ
ア
フ
ア
イ
ル

(5) Rマーク（再生紙マーク）の普及促進

「Rマーク」は、古紙パルプがどのくらい配合されているのかが一目で判るようにしたもので、平成7年6月、「3R活動推進フォーラム」の前身である「ごみ減量化推進国民会議」によって、再生紙の利用促進・普及啓発をしていくためのシンボルマークとして定められた。

申請や届出は不要だが、表示に際しては、正しい数字を表示するよう、ホームページや展示会などでパネル（写真右）展示などを通して、広報に努めている。

8. 会員サービスの充実（詳細は13～14ページに掲載）

- (1) 会員の連携・協働事業、情報の発信・共有化、会員割引料金による資料提供、3Rグッズ等の配布、等を実施した。
- (2) 2013年12月発刊の財団だより「会員特集号」では、「自治体会員における廃棄物・3Rの取り組み」、民間団体会員の広告（無料）を掲載した。
- (3) 事務局の業務状況、お知らせなどを「事務局通信」として毎月メールで配信した。
- (4) 年次報告会の資料等をサービス価格で提供した。

9. 調査研究の実施

公益財団法人廃棄物・3R研究財団の3R関連調査研究への協力

(公財) 廃棄物・3R研究財団が行った調査・研究業務に協力した。

1. 「Rマーク」とは
「Rマーク」は、平成7年6月、「3R活動推進フォーラム」の前身である「ごみ減量化推進国民会議」によって、再生紙の利用促進・普及啓発をしていくためのシンボルマークとして定められました。

2. 「Rマーク」の表示に際しては
「Rマーク」は、古紙パルプがどのくらい配合されているのかが一目で判るようにしたもので、申請や届出は不要で、誰でも自由に無料で使用できますが、表示に際しては、以下に十分注意してください。
○古紙パルプ配合率は製紙メーカーや印刷会社とご確認の上、正しい数字を表示すること。
○再生紙を使用した印刷物などに刷り込んで表示し、コーティング加工した紙や、他の素材と複合をした紙(段ボール等)に対しては使用しないこと。
○表紙と中面で古紙パルプ配合率の違う紙を使用している場合は、両方の古紙パルプ配合率を表示すること。
○古紙パルプ配合率を示した数値・文言、説明とあわせて表示すること。
○マークの形は崩さないこと。ただし、文字の大きさ、色は自由です。

3. 「Rマーク」の表示例
「Rマーク」は、「Rと古紙パルプ配合率を示す数値」と「古紙パルプ配合率〇〇%再生紙を使用」を組み合わせて表示してください。
なお、平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされています。
この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

ReDuCe | ReUse | ReCycle
活動推進フォーラム
〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JET 両国ビル 8F
財団法人 廃棄物研究財団内
TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164
URL http://3r-forum.jp/

3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

事務局案内図



JR 両国駅東口改札前 徒歩 1分
都営大江戸線 両国駅 A4 出口 徒歩 5分

3R活動推進フォーラム

～循環型社会めざして～

2014 年次報告書

発行：3R活動推進フォーラム

発行年月：平成 26 年 8 月

所在地：〒130-0026

東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F

(公財) 廃棄物・3R研究財団 内

TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164 E-mail : info@3r-forum.jp

URL : <http://3r-forum.jp/>



この製品は、古紙パルプ配合率 100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R 活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。